

資料-3

## 水源地域ビジョン策定事例

- ・苦田ダム水源地域ビジョン
- ・灰塚ダム水源地域ビジョン

平成23年12月12日

志津見ダム水源地域ビジョン策定委員会事務局

◆水源地域ビジョンの策定事例

◆全国 103 ダム策定済み (H21.3 末現在)

◆中国地方

ダム名	竣工	ビジョン策定	対象地域	目標・テーマ	基本方針	最近の主な活動	備考
殿ダム	H23 年度 予定	H21.10 ～H23.5	鳥取県 鳥取市国府町	万葉の歴史と自然の恵みに誘われる因幡のふるさと文化圏づくり	○きらめき:自然の恵みを楽しむ ○いとなみ:じげの暮らしを楽しむ ○いざない:郷土の語らいを広げる ○つながり:殿ダムの上下流の交流を深める	未実施	・基盤整備は H23 年度に終了予定 ・周辺整備は H24 年度から実施予定
菅沢ダム	S43.9	H17.11 ～H19.3	岡山県 日野郡日南町 大宮校区、阿 毘緑校区	菅沢ダムと共に歩み里山おおみや を守り、未来へ受け継いで行こう	○菅沢ダム(日南湖)と里山おおみやの連携強化と広 域交流活動、PR 促進 ○日南湖、里山おおみやの自然・歴史文化の活用 ○水源地域、里山おおみやの暮らしの保全と特産品 づくり	・H22.7 大宮里山まつり&菅沢ダム見学会 ・H19.11 島地川ダム-菅沢ダム水源地域ビジョン交流	
苦田ダム	H17.3	H19.11 ～H21.3	岡山県 苦田郡鏡野町	『みず』から『繋ぎ』、『活かし』、 『集う』瀬戸内へと繋がる水源の 郷で!	○連携・交流・協働による水源地域の保全と活性化 ○苦田ダム、奥津湖の有効活用による観光拠点形成 ○6次産業化の推進による地域の魅力づくり ○地域活動の活発化による地域づくりの推進	・H23.8 第6回ローラーキーかがみ野大会 ・H23.8 奥津湖クリーン大作戦 ・H22.5 箱の杜 春のイベント開催 ・H22.5 かがみの彩りの郷ビジョン ロゴマーク決定	
八田原ダム	H9.7	H18.12 ～H19.3	広島県 世羅郡世羅 町、府中市	新鮮な食べ物、清浄な水、健康な 子ども一人の和を広げ、ふるさと を支える水環境ネットワーク	○水源地域にふさわしい水環境を保全する ○多種多様なネットワークを創る	・H23.11 秋の夢吊り橋ウォーク(予定) ・H23.7 夢吊橋サマフェスタ&八田原ダム一般開放 ・H23.5 八田原ダム芦田湖周辺一斉清掃	八田原ダム芦田湖周辺活用連絡協議会 主催
灰塚ダム	H18.11	H19.11 ～H21.3	広島県 三次市、庄原 市	「笑湖(エコ)ハイヅカ」 ～人と自然が元気で笑顔があふれ る湖域づくり～	○なごみのふるさとと美しいダムづくり ○笑湖をつなぐネットワークづくり ○自然との共生を知り、学ぶ笑湖づくり ○情報、人材、経済などが力強く回る、安定した基盤 づくり	・H22.5 抱きしめて笑湖ハイヅカ ・H22.2 第5回ハイヅカ湖地域ビジョン推進委員会 ・H22.2 ウェットランド笑湖楽校第7回 -第3回冬鳥観察会- ・H21.10 ハイヅカ湖おでかけマップ、ネイチャーマップ、 ウォーキングマップ ・ハイヅカ湖地域ビジョンWEBによる情報発信	
土師ダム	S49.5	H16.11 ～H18.2	広島県 安芸高田市、 北広島町	江の川の水源から“はじまる”水 と人の環境	○豊かな自然と清らかな水環境の保全・活用 ○既存資源の利活用と新たな魅力の創出 ○広域的な交流・連携 ○人材の発掘・育成・支援 ○広報・啓発の推進	・H23.3 第10回桜守プロジェクト	
温井ダム	H13.10	H17 ～H20.7	広島県 安芸太田町	—	○温井ダムを活用した安芸太田町の地域づくりの促 進 ○温井ダムの知名度や集客力、資源性を全町へ波及 させる活用 ○ダム本体からダム広場までの様々な施設活用 (積極的な活用) ○地元要望に応じたダム施設の活用 (間接的な活用)	・H23.9 第2回安芸太田しわいマラソン ・H22.11 学生による映像インスタレーション IN 温井ダム ・H22.11 温井ダム自然観察会 ・H21.3 温井ダム活用連絡会議ブログ	
弥栄ダム	H3.3	H14.7	広島県大竹 市、佐伯町、 大野町 山口県岩国 市、美和町、 和木町	人と自然が奏でる弥栄ダム環境工 房村	○ハード整備・機能の拡充 ○健全な水環境の視点による地域機能の評価 ○地域社会の回復や都市交流の促進枠組み ○課題解決による豊かな人間関係の実現	未公表	弥栄ダムでは、ダム周辺地域を総合的に 整備する「弥栄ダム周辺地域活性化計 画」(H10.10)の事業促進を7方面から強 化する「弥栄ダム周辺地域活性化促進プ ラン」(H14.7)をビジョンとして策定。
島地川ダム	S56.3	H17.7 ～H18	山口県 周南市和田地 区	—	○情報基盤整備 ○魅力ある活性化テーマを実現するプロジェクト ○「力」を利用し集客力を高めるプロジェクト	・H23.11 紅葉の高瀬湖クリーンウォーク ・H19.11 島地川ダム-菅沢ダム水源地域ビジョン交流	

# かがみの 彩りの郷 ビジョン

苫田ダム水源地域ビジョン



平成 21 年 3 月

苫田ダム水源地域ビジョン策定委員会

## 目 次

・ 水源地域の現状	1
1．立地環境	1
2．自然環境	1
3．社会環境	1
4．地域観光	2
5．地域活動	2
6．苫田ダム建設事業	3
・ 苫田ダム水源地域ビジョン	5
1．基本理念	5
2．基本方針	6
3．施策内容	7
4．リーディングプロジェクト	16
5．推進方法	20
・ 策定組織と策定経緯	24
1．ビジョンの策定組織	24
2．ビジョンの検討経緯	26
・ 参考資料	27
1．苫田ダム水源地域ビジョン 策定委員会委員会規約	27
2．水源地域ビジョン策定要綱	30

### 1. 立地環境

岡山県の北部に位置する鏡野町は、高速道路等による広域の道路交通ネットワークが形成されており、山陽地方と山陰地方を結ぶルートや近畿地方と米子・松江などの山陰主要都市を結ぶルート等の中継地点に位置し、広域からのアクセス利便性に優れています。一方で、鏡野町域内では東西方向の道路ネットワークが不十分であるために、町域の中央部はアクセス利便性が高いものの、東部、西部はアクセス利便性が低く、町域内で格差が見られる状況となっています。

鏡野町全図



### 2. 自然環境

鏡野町は岡山県の北端に位置し、中国山地に連なる緑豊かな森林環境と、里山に包まれた農村集落が創り出す田園風景を特徴としています。特に、町域の北半分には、奥津溪や岩井滝に代表される数々の渓谷や名水、源生の自然が残る泉山や県立自然公園など、岡山県を代表する森林地域の自然環境が豊かに残されています。このような水と緑の自然環境や夏でも冷涼な気候は、森林型観光の貴重な資源であるといえます。



奥津溪

### 3. 社会環境

現在の鏡野町は平成 17 年 3 月 1 日に、鏡野町、奥津町、上斎原村、富村の 4 町村が合併して誕生しました。鏡野町の人口はピーク時の昭和 40 年から減少に転じ、平成 17 年度の人口は約 14,000 人です。特に、昭和 60 年以降は明確な人口減少傾向を示し、5 年ごとに 1,000 人前後と大幅に減少しました。また、全体に占める老年人口比率が 33% と高齢化が進んでいます。少子化やこれに伴う人口の減少、高齢化は、全国的な課題となっていますが、鏡野町においても、今後も高齢化、過疎化が進展すると考えられます。

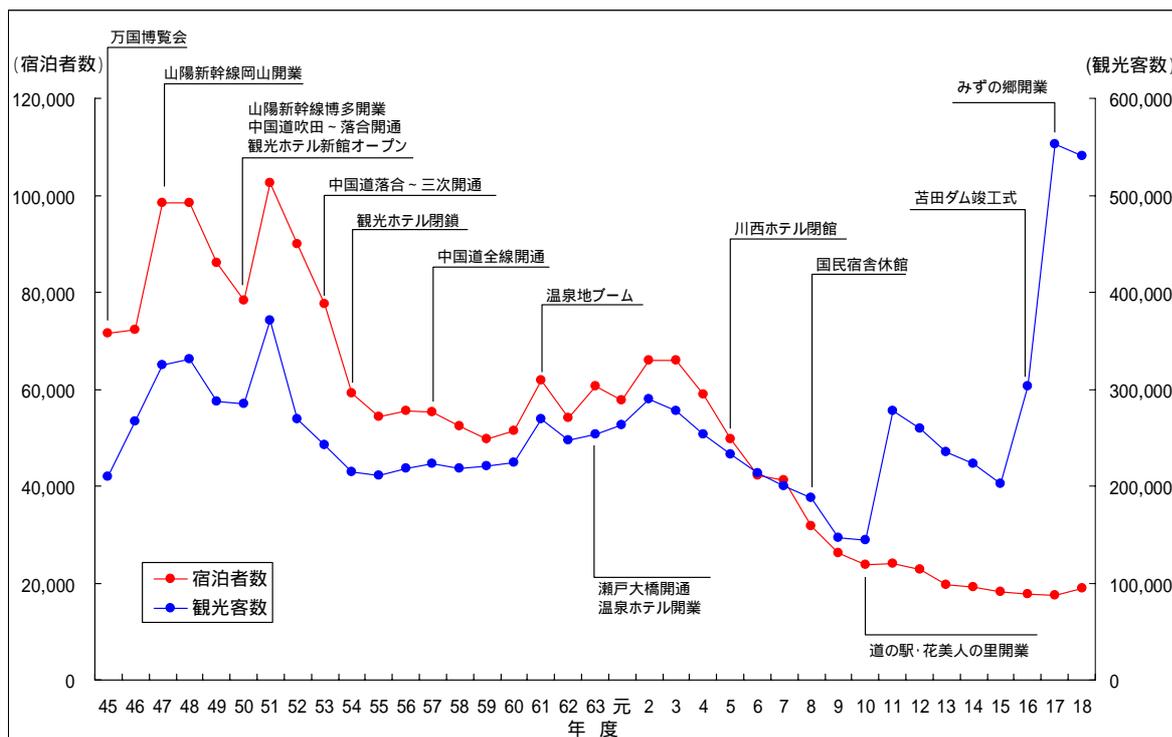
鏡野町は農林業を基幹産業としてきましたが、産業構造の変化や農林業従事者の高齢化等の問題が顕在化し、近年では温泉や奥津湖、地域の観光資源などと農林業を連携させる観光産業戦略を展開しつつあり、観光と連携した新たな農林業を目指しています。

#### 4. 地域観光

昭和45年から平成3年頃までは、鏡野町への観光入り込み客数は30万人～40万人程度であり、そのうち約15～20%程度が奥津温泉に宿泊していましたが、その後、宿泊客は急激に減少し、平成10年頃からは2万人程度に止まっています。一方、平成10年に道の駅と花美人の里が開業以来、日帰り客が増加し、近年では、温泉宿泊を目的とした宿泊滞在型の観光形態から、日帰り行楽、あるいは通過・立ち寄り型の観光形態へと変化しつつあります。

鏡野町は中国山地に連なる森林や渓谷などの豊かな自然に恵まれ、奥津温泉やキャンプ場、恩原高原スキー場、苫田ダム・奥津湖の雄大な景観など、観光資源となる豊富な自然や施設が広く点在しています。このような地域資源を有効に結びつけて、個性豊かな魅力を創出することが求められています。また、地域の観光を考える際には、周辺に立地する集客力のある観光資源・地域との連携と競合回避に配慮した広域的な観光を推進することが求められています。

鏡野町観光入り込み客数の推移



#### 5. 地域活動

鏡野町には、株式会社やNPOから任意団体まで、様々な組織形態、規模の団体が数多くあり、それぞれに地域の個性に応じた多様な活動に取り組んでいます。

地域づくりの活動、観光振興イベントの実施、地場産業の育成などに関しては、比較的似通った内容の活動を実施している団体も多くあり、現段階でも協力して活動に取り組んでいる例も見られます。今後更に積極的に活動のテーマや活動地域毎に様々な連携・相互協力を行うことが可能と考えられ、組織のネットワーク化などを推進することで各団体活動の活発化を促す可能性が伺えます。

## 6 . 苫田ダム建設事業

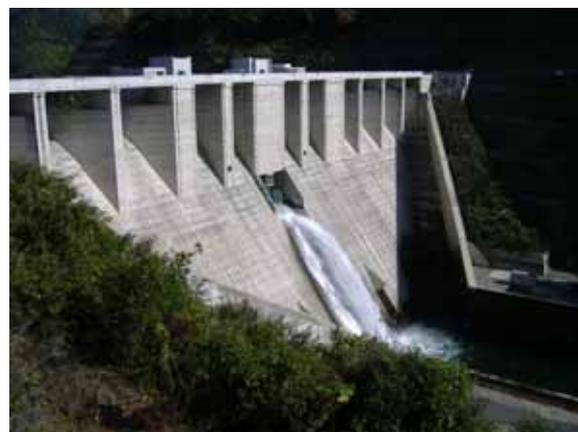
### 事業の概要

苫田ダムは、一級河川吉井川水系吉井川の河口から約90km上流の岡山県北部に建設された、岡山県では初めての国土交通省直轄管理の多目的ダムです。

吉井川は、これまでに枕崎台風（昭和20年9月）による未曾有雨の大洪水をはじめ、昭和38年、40年、41年、42年、47年と洪水が続発し、度重なる被害を受けました。特に、平成10年10月の台風10号は、吉井川流域に浸水家屋5,900戸を越える甚大な被害をもたらしました。

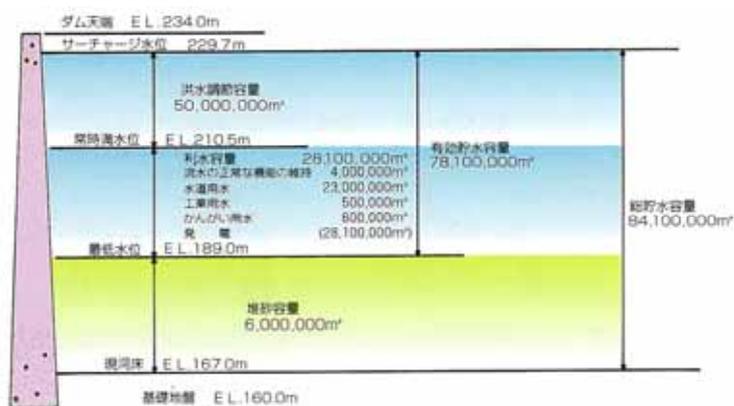
その一方、昭和42年、昭和53年、昭和57年、平成6年の小雨による渇水においては既得用水の取水制限が実施されるなど、しばしば深刻な水不足に見舞われました。平成6年の渇水では、吉井川下流部において約60日間にわたり、農業用水・上水道用水・工業用水が最大30～70%の取水制限を余儀なくされました。

苫田ダムはこのような治水面、利水面の両面を担うことを目的として建設されたものであり、当初、岡山県が昭和28年12月に吉井川総合開発調査に着手し、翌昭和29年に建設省（当時）が事業を引き継ぎました。その後、昭和47年度から実施計画調査に、昭和56年度から建設事業に着手し、平成17年3月に調査着手以来52年の歳月と総事業費2,040億円をかけて完成しました。



- 集水面積：217.4km<sup>2</sup>
- 湛水面積：約3.3km<sup>2</sup>
- 総貯水容量：84,100千m<sup>3</sup>
- 有効貯水容量：78,100千m<sup>3</sup>
- 堆砂容量：6.00千m<sup>3</sup>
- 洪水調節容量：50,000千m<sup>3</sup>
- 利水容量：28,100千m<sup>3</sup>

貯水池容量配分図



### 水位

- サーチャージ水位 EL229.7m
- 常時満水位 EL210.5m
- 最低水位 EL189.0m

## 事業の特徴

### 建設事業に係わる反対運動と地域住民の協力

苦田ダムの建設は昭和 32 年に山陽新聞に苦田ダム建設構想の記事が掲載されると同時に、地元でダム建設反対の声が一斉にあがり、地元の住民と自治体・奥津町を巻き込んだ 38 年間にわたるダム建設反対運動が行われました。

長期にわたるダム反対運動の間に、村・町を挙げての反対運動から、反対と容認で町政を二分する時代を経て、水没者の方々の同意・移転が進むなかダム建設を活かした地域活性化の方向へと徐々に流れが変わり、平成 7 年 3 月 21 日に阻止同盟が立ち入り調査に同意することで、反対運動の歴史に終止符が打たれました。このような長い反対運動のなかで翻弄され水没移転を余儀なくされた方々の多大な協力によって苦田ダムの建設は進められ、13 地区の集落、500 戸を超える家屋が湖底に沈みました。苦田ダム建設に関しては、地元の地域社会と水没移転された方々に大きな影響と変化をもたらして建設事業を進めてきた経緯があり、その歴史を踏まえることが求められます。

### 景観・環境に調和したダムづくり

苦田ダム、奥津湖の周辺においては、ダム建設に際して取り入れられた「ランドデザイン」の考え方に沿って、周辺の自然環境・景観に調和した新たな風景が創出されています。特に、緑豊かで広大な貯水池風景やダム本体、苦田大橋などの大規模土木構造物は眺望の主対象となりうる美しい姿を湖畔に現し、ダム湖周辺では自然豊かな水辺環境を広く利用するための公園的整備も行われています。これまで奥津地域には無かったこのような新たな風景や環境は、地域を訪れた人々にとって新しい地域の顔・魅力であり、美しい景観・環境の適切な保全・管理・活用によって地域の魅力を維持・向上させていくことが必要です。



## 1. 基本理念

吉井川の河口から約90km。ここには吉井川の源流に広がる深い森から流れ出る美しい清流を集めて広大な水面を広げる奥津湖があります。周辺地域には、名湯:奥津温泉や四季折々に豊かな表情を見せる自然環境と懐かしさのある日本の原風景が残り、ここに集う人々の心と体を優しく癒してくれます。

しかしながら、社会産業構造の変化の波は地域の基幹産業の衰退を招き、高齢化や過疎化が急速に進むなか、地域の活力が大きく低下するなど、地域づくりにおける数々の課題が顕在化しています。こうした課題に対し、地域の自立的・持続的な活性化の実現を目指して、地域の活動団体等による様々な取り組みが行われています。

一方、奥津湖を誕生させた苦田ダムは、水源地域から流れ出る水を貯留・調節することで、下流地域に対する洪水被害の軽減と生活・産業用水の供給を担い、広範な下流地域の安全・安心な生活や産業活動を支える極めて重要な役割を果たしています。この役割を将来にわたり適切に持続して行くには、吉井川流域全体を視野に入れて流域全体のバランスの取れた発展を目指すことが重要です。

吉井川の源流に広がる苦田ダムの水源地域では、こうした地域が持つ個性と地域が担う役割をしっかりと見つめつつ、水源地域と下流地域に暮らす人々の思いや活動を「繋ぎ」、水源地域の魅力や資源を探り・守り・高めながら有効に「活かし」、多くの人々が交流や癒し・憩いを求めて水源地域に「集う」ことを目指し、瀬戸内まで連なる流域全体の視点に立って上下流域の連携・協働のもとに、地域住民「自ら」が主体となって自立的・持続的・段階的な活性化を推進します。

**名 称：**『かがみの 彩りの郷 ビジョン』

**テーマ：**『みず』から『繋ぎ』、『活かし』、『集う』  
瀬戸内へと繋がる水源の郷で！

\* 『彩りの郷』とは苦田ダム上流地域の愛称で、豊かな自然や古くからの歴史・文化、様々な観光施設、そして地域に暮らす人々とその活動など、地域の多彩な資源を「彩り」という言葉で表現しています。

## 2. 基本方針

苦田ダム水源地域活性化の基本的なあり方として、水源地域の有する特性や課題を踏まえ、水源地域ビジョンの基本理念の実現するための4つの基本方針を設定しました。また、設定した4つの基本方針に基づき、具体的な施策を展開するための3つの柱を設定しました。

### 基本理念の実現に向けた基本方針

#### 方針：1 連携・交流・協働による水源地域の保全と活性化

苦田ダム建設事業を契機にした下流地域等との相互連携や交流活動、水を介した繋がりへの理解の向上などを促進し、上下流地域の行政や住民の協働により水源地域の持続的な保全を図ります。

#### 方針：2 苦田ダム、奥津湖の有効活用による観光拠点形成

優れた立地条件、自然環境、多様な利活用空間などを有する苦田ダム、奥津湖を水源地域の中心的な観光資源、交流施設として有効に活用し、地域観光、広域観光の拠点形成を図ります。

#### 方針：3 6次産業化の推進による地域の魅力づくり

水源地域に点在する多様な地域資源や優れた自然環境を発掘して有効に活かすことで地場産業や一次産業と観光との融合を図り、新たな地域産品や観光資源の創出等によって水源地域の観光地としての魅力を高めます。

#### 方針：4 地域活動の活発化による地域づくりの推進

地域の活動組織や住民が主体となって実行する地域づくり活動の連携・協力を推進することで、地域活動や住民参加機会を拡大化・活発化し地域づくり・地域活性化の取り組みを推進します。

### 具体施策を展開するための3つの柱

#### 繋ぐ！ 人・地域

水源地域で活動する多くの人々や多様な地域活動の連携・協働「水」でつながる下流地域との交流など、人と地域を繋ぐための交流・連携の取り組みを進める。

#### 活かす！ 地域資源

水源地域に数多くある様々な優れた自然・人・モノ・文化などを探り出し、地域活性化の資源として、守り、かつ、有効に活かす取り組みを進める。

#### 集う！ 奥津湖

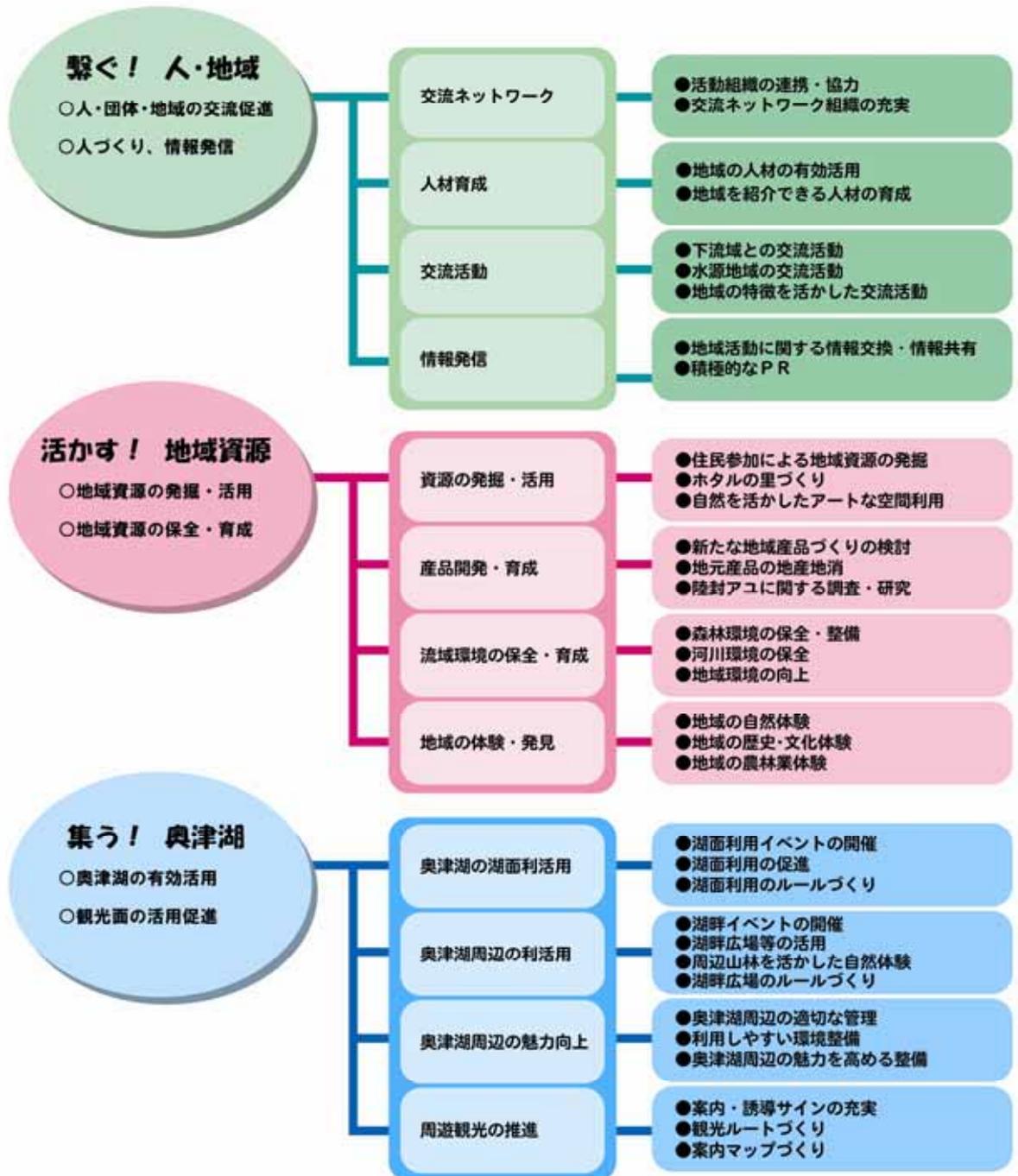
広大な水辺に優れた自然と美しい風景が広がる奥津湖に多くの人々が集い、交流することができる地域活性化の拠点を形成する取り組みを進める。

#### 自ら！ 考え、行動

瀬戸内まで連なる流域全体との連携のもとに、水源地域に暮らす人々が、「みず」から考えて、「みず」からの力で取り組む。

### 3. 施策内容

設定した3つの柱を軸に、以下の具体施策を実施していきます。



## 繋ぐ！人・地域

水源地域で活動する多くの人々や多様な地域活動の連携・協働、「水」でつながる下流地域との交流など、人と地域を繋ぐための交流・連携の取り組みを進めます。

### 交流ネットワーク

#### 活動組織の連携・協力

地域で活動する組織が資材や人材などの共有化を図るなど、相互の連携・協力を進めます。

- ・ ボランティア活動の連携 など

#### 交流ネットワーク組織の充実

地域内外の交流を進めるために、既存の交流組織の充実を図るとともに、流域における組織間のネットワークを充実させます。

- ・ 「かがみの 夢口マンねっと」の充実
- ・ 「山と海の交流会」の充実 など

### 人材育成

#### 地域の人材の有効活用

地域を良く知る人や様々な技能を持った高齢者、住民ボランティアなど、地域活動に携わる有用な人材を発掘して活用します。

- ・ 地域の古老や活動ボランティア等の情報収集
- ・ 地域を良く知る古老等からの知恵や知識、技術などの収集 など

#### 地域を紹介できる人材の育成

苫田ダム水源地域の自然や歴史、文化などを来訪者に紹介できる人材（観光ガイド、語り部など）の育成を進めます。

- ・ 地域を知る勉強会等の開催
- ・ 観光ボランティアガイドの養成 など

## 交流活動

### 下流域との交流活動

吉井川によって結ばれている水源地域と下流域の人々が交流できる活動を展開します。

- ・ 長巻寿司づくり
- ・ 森と海を繋ぐ植樹会や間伐体験会 など

### 水源地域の交流活動

参加者を募る情報等を広く発信し、地域の人々が地区や世代を越えて交流できる町全体での祭りなどの活動を展開します。

- ・ 地域イベント（もみじ祭や納涼祭等）の充実 など

### 地域の特徴を活かした交流活動

地域の産品である「農産品」や「山の幸」、「ヒラメ(アマゴ)」、「水」、「温泉」等の地域の特徴を活かした交流活動を展開します。

- ・ 海の幸、山の幸料理対決（海のヒラメと川のヒラメなど）
- ・ 「水」をテーマにしたシンポジウムやフォーラム など

## 情報発信

### 地域活動に関する情報交換・情報共有

活動団体の活動内容や地域のイベント等の情報を集約し、地域内での交換、共有を図ります。

- ・ インターネットを活用した情報交換（ホームページ、インターネット掲示板、メールマガジン等）
- ・ 情報の集約、交換、共有方法の検討、試行（ケーブルテレビの活用等） など

### 積極的なPR

地域への来訪者を増加させるために、地域住民だけでなく、他地域の人々に地域の魅力を積極的に伝えるための効果的なPR手法を検討、実施します。

- ・ 学校へのPR（社会見学、野外活動や合宿の場として）
- ・ イメージキャラクターの制定
- ・ 公募を活用した地域のPR など

## 活かす！地域資源

水源地域に数多くある様々な優れた自然・人・モノ・文化などを探り出し、地域活性化の資源として、守り、かつ、有効に活かす取り組みを進めます。

### 資源の発掘・活用

#### 住民参加による地域資源の発掘

地域住民や他地域の人などの多くの人々との協働で、地域の良い点や地域づくりの素材などの地域資源を発掘します。

- ・携帯電話を活用した地域資源の収集
- ・地域探検隊の結成 など

#### ホタルの里づくり

ホタルや鏡野町の蝶であるジャコウアゲハ、ギフチョウなどが飛び交うような環境づくりに取り組みます。

- ・河川の整備や貴重昆虫の増殖の検討
- ・餌となる植物の植栽
- ・環境づくりを担う組織活動の活発化 など

#### 自然を活かしたアートな空間利用

大学やアーティストとのコラボレーションなどにより、「水」「木」「石」などの自然を活かしたアート空間としての利用を図ります。

- ・野外アート展の開催
- ・箱の杜のアート空間利用 など

産品開発・育成

新たな地域産品づくりの検討

地域の農産品や水産品、林産品および吉井川源流の水などの特産品を活かし、鏡野町ブランドの新たな産品づくりを進めます。

- ・ 新たな地域産品づくり（農林水産品、水、地場産品料理など）
- ・ 産品づくりのための既存施設（仮排水路トンネル跡）等の活用検討 など

地元産品の地産地消

地域の農産品や水産品、林産品等を、地域内で積極的に販売・消費することで地元産品の育成を図ります。

- ・ 地産地消を目指した仕組み（地域通貨等）づくりの検討 など

陸封アユに関する調査・研究

奥津湖に生息している陸封アユの調査・研究等を進めます。

- ・ 陸封アユの生息状況に関する調査・研究 など

流域環境の保全・育成

森林環境の保全・整備

流域に広がる森林の間伐等を進め、適切な森林環境の保全・整備を進めます。

- ・ 水源の森づくり（植樹等）
- ・ 間伐の実施と間伐材の循環利用（木工、カヌーづくり等）
- ・ 森林管理模範林づくり
- ・ 森林保全に関するPR など

河川環境の保全

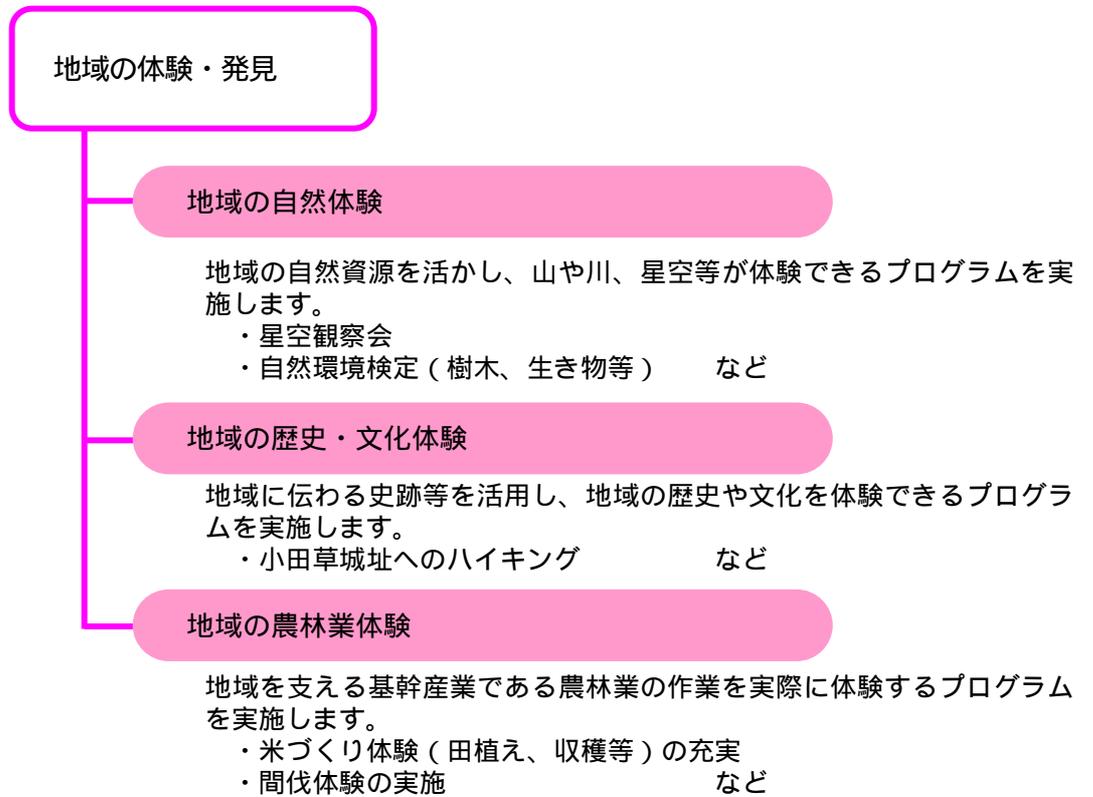
清らかな「水」に関するPRや河川の清掃活動等を進め、地域の河川環境の保全を図ります。

- ・ クリーン活動の充実（水を守るんジャー！隊）
- ・ 「水」についてのエコ学習 など

地域環境の向上

地域にある小規模なスペースなどを活用しつつ、四季の花が楽しめる植栽などの環境整備を進め、地域環境の向上を図ります。

- ・ 田畑や道路沿道への花の植栽（花の咲く並木道づくり）
- ・ お花畑づくり など



## 集う！奥津湖

広大な水辺に優れた自然と美しい風景が広がる奥津湖に多くの人々が集い、交流することができる地域活性化の拠点を形成する取り組みを進めます。

### 奥津湖の湖面利活用

#### 湖面利用イベントの開催

広々とした空間と穏やかな湖面等を活かし、多くの人々が参加できる様々なイベントを開催します。

- ・ 釣り大会、釣りマナー講習会
- ・ 手づくり筏レース
- ・ ラジコンボート大会
- ・ カヌー体験会
- ・ 水きり大会
- ・ 水上結婚式
- など

#### 湖面利用の促進

広がりのある湖面を活用し、様々な湖上スポーツなどの利用を図ります。

- ・ カヌー
- ・ 釣り
- ・ 水上スキー、ジェットスキー
- ・ ウインドサーフィン
- など

#### 湖面利用のルールづくり

湖面利用を適切に行うために、奥津湖の環境を守りつつ安全で活発な利用を推進するルールづくりを進めます。

- ・ 湖面利用ルールの見直し・制定
- など

## 奥津湖周辺の利活用

### 湖畔イベントの開催

湖畔の環境や湖岸道路等を活かしたイベントを開催します。

- ・トライアスロン
- ・ウォーキングラリー
- ・ママチャリレース
- ・水辺の生き物観察会
- ・たこあげ大会
- ・マラソン大会
- ・バードウォッチング
- ・ローラースキー
- ・巣箱づくり
- ・花火大会
- ・ラジコン大会
- など

### 湖畔広場等の活用

湖畔広場や湖岸道路を様々なレクリエーション等の場として活用します。

- ・キャンプ、オートキャンプ
- ・バーベキュー
- ・ドッグラン
- ・サイクリング
- など

### 周辺山林を活かした自然体験

奥津湖周辺の山林や既存の登山道等の活用・充実によって、散策やバードウォッチング等の利用を図ります。

- ・登山道の充実
- ・展望広場の整備
- ・食餌植物の植栽
- ・巣箱の設置
- など

### 湖畔広場のルールづくり

湖畔広場の利用を適切に行うために、利用者にとってわかりやすいルールづくりを進めます。

## 奥津湖周辺の魅力向上

### 奥津湖周辺の適切な管理

来訪者が奥津湖周辺を気持ちよく利用できるように、住民・行政・諸団体等の協働によって適切な管理を進めます。

- ・ 清掃、除草
- ・ 不法投棄の取り締り強化 など

### 利用しやすい環境整備

奥津湖周辺を利用しやすくするために、休憩施設等の充実を図ります。

- ・ 休憩施設
- ・ トイレ
- ・ 自転車道
- ・ 日陰植栽
- ・ 歩道
- など

### 奥津湖周辺の魅力を高める整備

奥津湖周辺の魅力を高めて人を呼び込むために、地域の自然を活かした美しい風景や話題性のある特徴的な環境などの創出を図ります。

- ・ 貯水池への視界の確保（除草・伐採など）
- ・ サクラやモミジ等の名所、果樹公園、花しょうぶ園等の整備
- ・ 話題性のある景観・環境の整備（特徴的なモニュメント等）
- ・ 不動の滝の周辺の整備 など

## 周遊観光の推進

### 案内・誘導サインの充実

奥津湖への来訪者を適切に案内・誘導するためのサイン等の充実を図ります。

- ・ 案内サイン（水鳥の見えるポイント、紅葉や夕焼けが美しいポイント等）
- ・ 誘導サイン（施設等までの距離や所要時間等） など

### 観光ルートづくり

奥津湖周辺や町内に立地する施設・資源等の連携を図り、巡る楽しさのある観光ルートづくりを行います。

- ・ 奥津湖八景のPR
- ・ 資源等の新たな連携の検討（奥津湖七珍、奥津湖七不思議等）
- ・ 奥津湖を含む町内観光ルートの検討 など

### 案内マップづくり

奥津湖周辺を観光する際に使える案内マップづくりを進めます。

- ・ 奥津湖周辺の地域資源の公募
- ・ 案内マップづくり（お宝、樹木、花等マップ） など

#### 4 . リーディングプロジェクト

リーディングプロジェクトとは、「水源地域ビジョンの実施・推進を牽引・先導するための先行的な活動」であり、苦田ダム水源地域ビジョンを実行する具体的な取り組みを示して地域の気運を高めることが求められます。このため、施策の実現性が確保でき、水源地域ビジョンを周知していただくための広報効果の高さが求められます。

そのため、リーディングプロジェクトは、

地域の活動団体や地域の住民等が参加しやすく、  
協働で取り組める分かりやすい内容であることが重要

です。

こうした考え方にに基づき、以下の6つの施策をリーディングプロジェクトとしました。

リーディングプロジェクト1：みんなでエコハイク！

リーディングプロジェクト2：メールマガジン「かがみの彩りの郷通信」！

リーディングプロジェクト3：水源の森づくり！

リーディングプロジェクト4：地域のイトコ探し！

リーディングプロジェクト5：奥津湖利用のルールづくり！

リーディングプロジェクト6：みんなの湖畔広場！

リーディングプロジェクト1：みんなでエコハイク！

〔概要〕

子供から高齢者までの誰でもが広く参加できるイベントとして、ゴミを拾いながら奥津湖の周辺環境を体験して歩くエコハイクを実施する。

〔取り組み内容〕

苫田ダム管理所や奥津湖総合案内所を起終点とするコースを設定し、湖岸道路を歩いて奥津湖周辺の環境を体験しながら、参加者に途中で落ちているゴミを拾ってもらおう。

周辺整備地や景観ポイントなどでは、概要説明を行い、苫田ダムの成り立ちや奥津湖を取り巻く豊かな自然環境について理解を高めてもらう。

イベント終了後には交流会を行う。

ゴミ袋などは参加者に支給する。

観光シーズン前の春と秋の2回開催する。

〔期待できる効果〕

環境美化意識の向上と郷土愛（水源地域に対する意識）の醸成

苫田ダムの役割の理解と奥津湖の有する豊かな自然環境の対外的なPR

奥津湖総合案内所（みずの郷奥津湖）の集客力の向上

リーディングプロジェクト2：メールマガジン「かがみの彩りの郷通信」！

〔概要〕

水源地域や活動団体に係わる情報の共有化と地域外の人々へのPRを図るために、地域で活動する団体の紹介やイベント情報などを掲載したメールマガジンを発行する。

〔取り組み内容〕

水源地域で開催されるイベント情報や、地域で活動する団体の活動報告、活動への協力要請などの情報を掲載したメールマガジンを発行する。

配信対象は、苫田ダム水源地域ビジョンの関係者やその他の地域活動団体などを想定する。

電子メールによる配信を基本としつつ、電子メールアドレスを持たない配信希望団体、個人などへは、郵送による対応も検討する。

2、3ヶ月程度に1回の頻度で配信する。（イベントなどが集中する時期は毎月発行）

〔期待できる効果〕

水源地域で活動する各種団体の情報共有による相互理解と連携の強化

地域外への情報発信による水源地域のPR

リーディングプロジェクト3：水源の森づくり！

〔概要〕

水源地域の人と下流域の人々などが共に、種まきや植樹、下草刈り等の林業体験等を行い、水源地域の森林を保全・育成する水源の森づくりを進める。

〔取り組み内容〕

地域の人々と下流域の人々が一緒に、ドングリ拾い、苗の植え付け、下草刈りなどの林業体験を組み合わせた森づくり体験活動を行う。

ドングリ拾い：参加者全員でドングリを拾い、用意されたポットに植えつける作業を行う。

植樹会の実施：下草刈りを体験した後、育てられたドングリの苗を植えつける。

イベント終了後には交流会を行う。

〔期待できる効果〕

森林での作業体験を通じた水源の森の保全、育成に対する理解と意識の向上

上下流の人々が参加して取り組むことによる流域連携の活発化

奥津湖周辺の有する豊かな自然環境の対外的なPR

水源地域に対する誇りと愛着の向上

リーディングプロジェクト4：地域のイイトコ探し！

〔概要〕

携帯電話のカメラ機能などを使って、苦田ダム水源地域の隠れた地域資源を広く公募し、新たな資源の発掘を行う。

〔取り組み内容〕

携帯電話のカメラ機能を利用して、自分の好きな鏡野町内の地域資源を撮影してもらい、位置を明記の上、応募してもらう。

対象範囲は鏡野町内とする。

応募された写真の展覧会の開催やホームページでの公開により、広く一般の人に知ってもらう。

応募写真をもとに鏡野町の[イイトコ]を一般の人に投票してもらう。

「春～夏」と「秋～冬」の年2回に分けて募集する。

収集された地域資源の情報を活かして将来的には案内マップ等をつくる。

〔期待できる効果〕

新たな地域資源の発掘

水源地域に対する意識の向上

鏡野町の観光資源のPR

リーディングプロジェクト5：奥津湖利用のルールづくり！

〔概要〕
既存の暫定湖面利用ルールを改善した奥津湖の湖面利用に関するルールと、湖畔広場の利用に関する禁止事項などのマナーづくりを行う。
〔取り組み内容〕
奥津湖の湖面利用の促進を基本的な考え方とし、既存の暫定ルールを改善・見直してルールを作る。 湖面利用だけでなく、湖畔利用のあり方についても検討し、湖畔広場の利用に関するマナーや注意事項などをあわせて整理する。 策定した湖面利用ルールや湖畔利用マナーを周知・運用するための取り組みを行う。
〔期待できる効果〕
奥津湖の湖面や湖畔広場の利用促進と利用の適正化 水源地域周辺施設への集客力の向上

リーディングプロジェクト6：みんなの湖畔広場！

〔概要〕
奥津湖湖畔の箱の杜や浮島で、地域の方々のボランティアによる景観木の植樹や草刈り、清掃等の環境改善活動を行い、お花見やバーベキュー、キャンプ、地域の祭などができる広場に利用する。
〔取り組み内容〕
住民ボランティアの参加によって奥津湖湖畔の箱の杜や浮島等にサクラやモミジ、レンゲや菜の花などの景観植物を植栽し、四季折々の移り変わりが楽しめる新たな風景をつくりだす。 景観植物の植栽に際しては必要に応じた植栽基盤の再整備を行う。 再整備した区域では草刈りやゴミ拾い等の清掃活動イベントを春と秋の2回行う。 「奥津湖利用のルールづくり」と併せて、湖畔広場の利用に係わる規制を緩和する。 種まき、花植えなどの環境改善活動を行った区域を活用し、環境教育イベント等を開催する。
〔期待できる効果〕
奥津湖周辺における新たな観光拠点の創出 環境美化意識の向上と郷土愛（水源地域に対する意識）の醸成 地域交流拠点の創出 奥津湖周辺の利用の促進

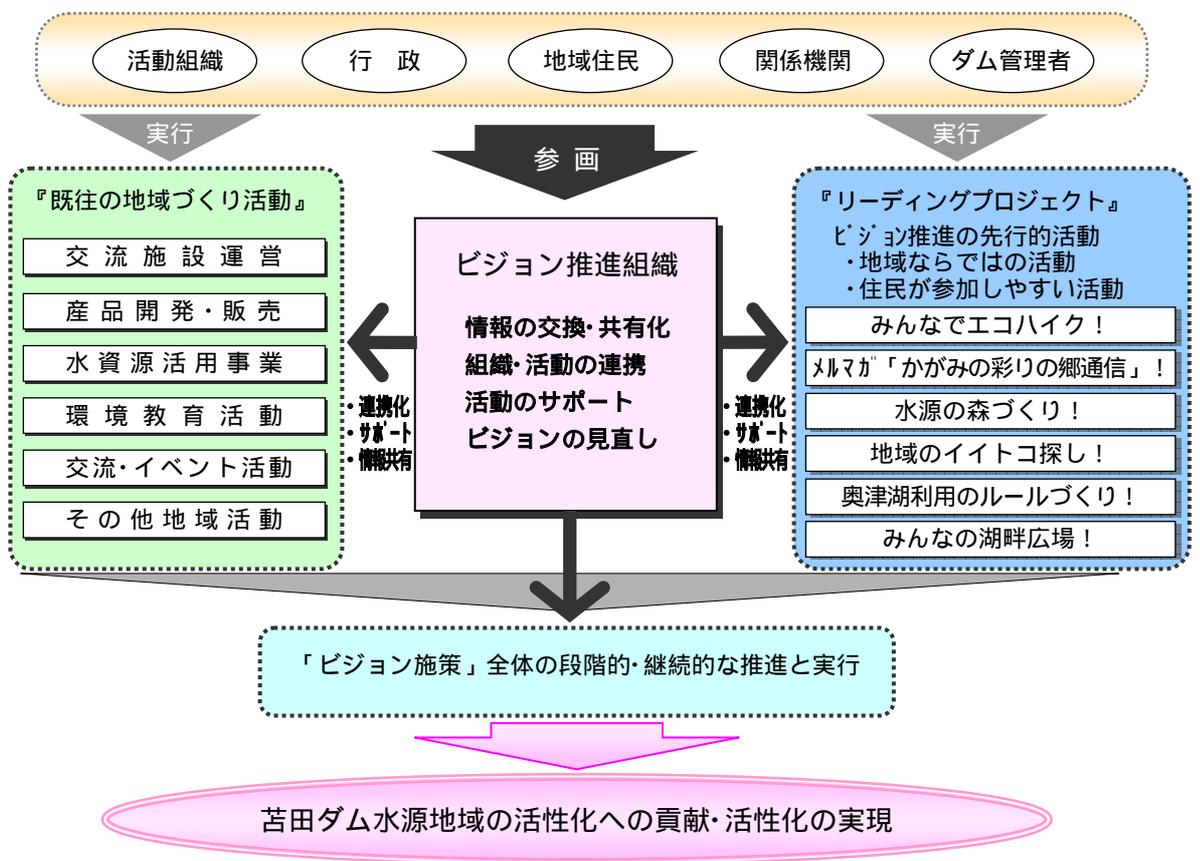
5 . 推進方法

既往の活動とリーディングプロジェクトの両輪によるビジョンの推進

苦田ダム水源地域ビジョンの実行にあたっては、地域の活動団体が主体となって自主的に取り組んでいる「既往の地域づくり活動」を継続・充実することと、苦田ダム水源地域ビジョンを牽引する「先行的な活動：リーディングプロジェクト」を地域住民の参画のもとで新たに進めること、の両輪によってビジョンを推進し、段階的・継続的にビジョン施策全体の実行へと発展させていきます。

そのためには、多くの活動団体や関係機関が協働してビジョンを推進するための中核となる組織を設立し、必要な情報の交換・共有化や関係する組織の連携・調整等を行い、各々の取り組みを円滑、かつ、効率的に進めます。また、この組織は、ビジョンの各施策の進捗状況等を把握し、ビジョンの基本理念等を継承しつつ、必要に応じてビジョン自体を見直す役割を担います。

苦田ダム水源地域ビジョンの推進イメージ

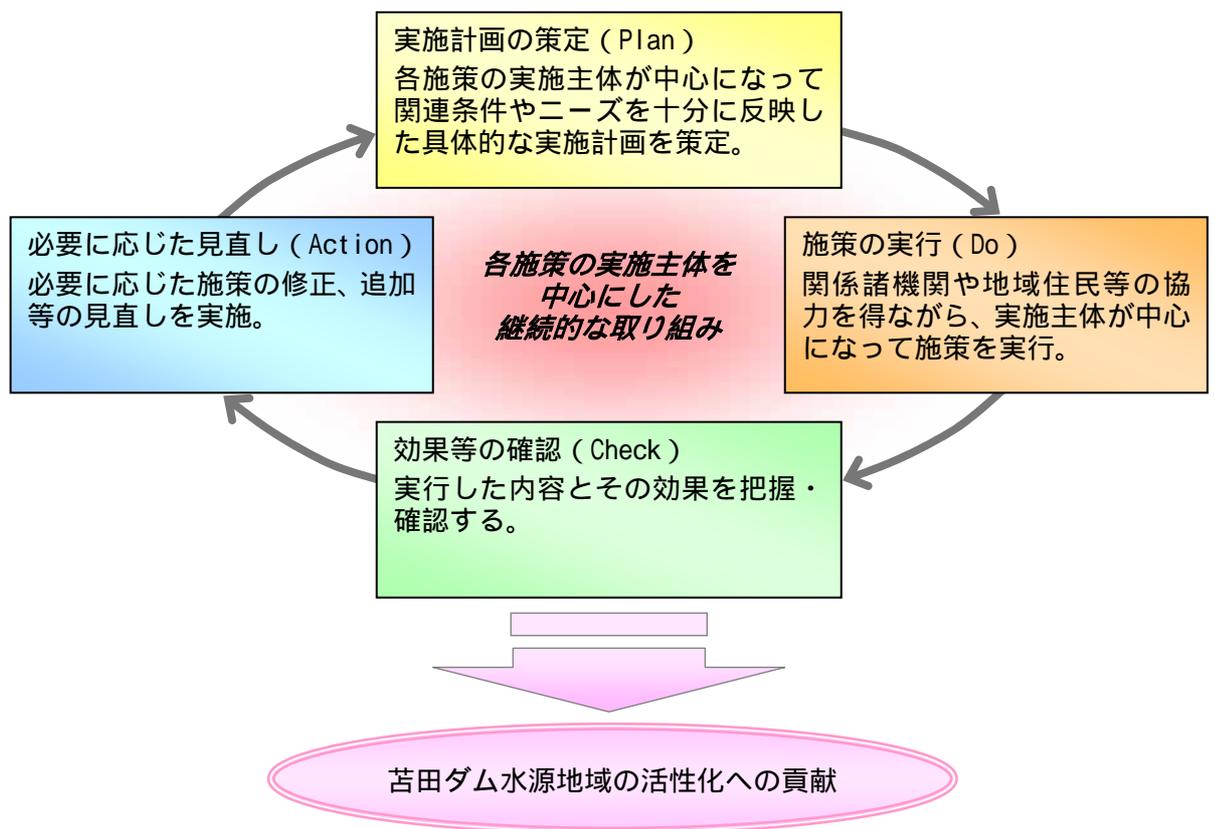


P D C A サイクルによるビジョンの推進

苫田ダム水源地域ビジョンの実行にあたっては、各種の地域づくり施策の継続と将来を見据えた改善・発展が必要であるため、施策毎に「Plan(計画)」「Do(実行)」「Check(効果等の確認)」「Action(必要に応じた見直し)」の『P D C A サイクル』を続けることで施策の継続的な改善を図りつつビジョンを推進し、苫田ダム水源地域の活性化に貢献します。

また、P D C A サイクルによる各施策の実行に際しては、継続的に改善しつつ施策の実施効果を高めていくため、当初から無理のある高い目標を設定せずに試行的な取り組みや達成が容易な目標からスタートし、段階的に目標を高めるスパイラルアップの視点に立って取り組みを行います。

ビジョン推進のP D C A サイクル



また、ビジョン全体も『P D C A サイクル』によって、各施策の「実施計画 (Plan)」に基づいて「実行 (Do)」した内容やその効果を年度毎に「把握・評価 (Check)」し、必要に応じて「ビジョン自体の見直し (Action)」を行うことで、社会情勢の変化や水源地域の状況変化に柔軟に対応しながら苫田ダム水源地域の活性化を目指します。

## ビジョン推進のプロセス

水源地域の人々の参画を得ながら実効性の高い地域活性化施策として苦田ダム水源地域ビジョンを推進するには、最初から多くの施策を同時に展開するのではなく、無理なく、着実に実行できる施策からスタートし段階的に取り組みを拡大していくことが重要であり、以下の段階的ステップに沿ってビジョンの推進を図ります。

### 第1ステップ……策定から実行・推進への移行期

各活動の連携を図りつつ既往の地域づくり活動を継続するとともに、早期に実行が可能で実施効果がわかりやすいビジョン推進の「きっかけ」となる施策：「リーディングプロジェクト」をビジョン推進組織が主導しつつ実行する。

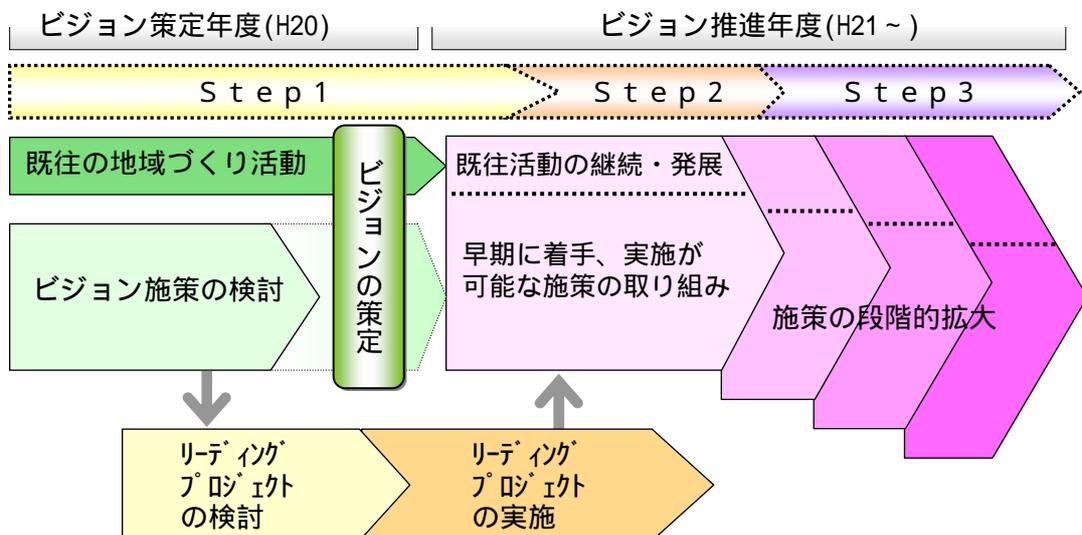
### 第2ステップ……ビジョン施策の展開期

第1ステップによる地域の機運の高まりを受けて、ビジョンの施策のうち比較的早期に実施が可能な新たな施策を実行する。

### 第3ステップ……ビジョン施策の発展期

第2ステップでの実績を踏まえてその他の施策を段階的に実行・拡大する。

## ビジョン推進プロセスのイメージ

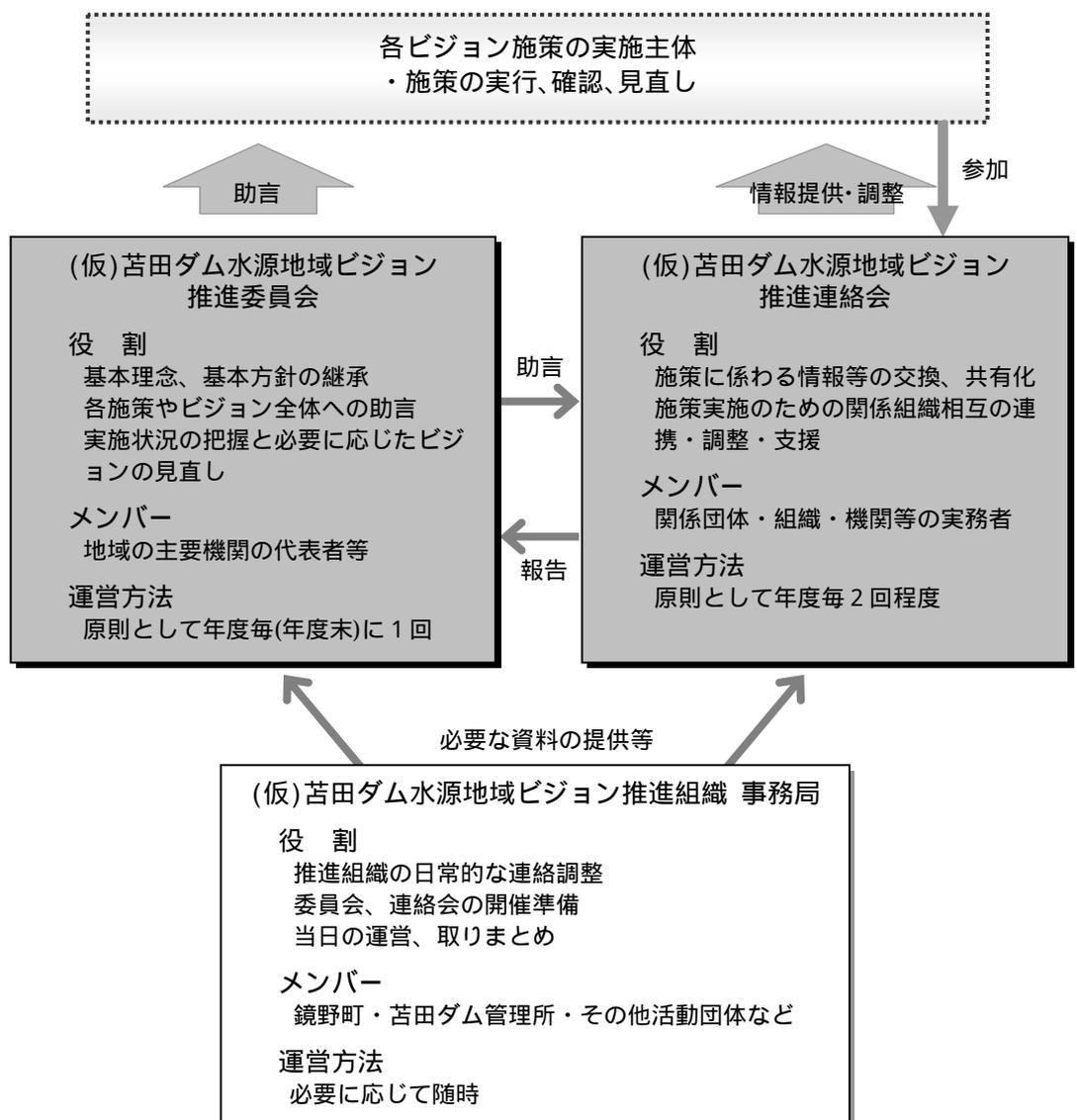


苦田ダム水源地域の活性化への貢献

ビジョン推進組織

苫田ダム水源地域ビジョンを推進するために、水源地域全体の観点からビジョンを評価・改善・助言する役割を担う組織と、ビジョンの施策に関係する数多くの住民、団体、機関などの相互の協働・連携・支援等を促す役割を担う組織を設立し、ビジョンの推進を図ります。

ビジョン推進組織の役割および構成



## 1. ビジョンの策定組織

苫田ダム水源地域ビジョンの策定に際しては、水源地域に係わる各機関(自治体・関係機関・ダム管理者・地域住民・関係組織等)が計画策定のための協議・意向調整・合意形成を行う『苫田ダム水源地域ビジョン策定委員会』と、その下部組織として、地域住民に多様な参画機会を提供しつつ地域の視点に立って具体的な施策を検討する『苫田ダム水源地域ビジョン策定分科会ワーキング』の二段階の策定組織を設置して検討・策定作業を進めました。

### ●苫田ダム水源地域ビジョン策定委員会

#### ◆役割

- ビジョン策定に関する基本的な内容の検討
- 地域の関係機関の意向調整・合意形成

### ●苫田ダム水源地域ビジョン策定分科会ワーキング

#### ◆役割

- 地域活性化の方策やアイデアを検討
- 協働で実行できる活動の内容を検討
- 地域住民の参加機会の検討・実施

#### ◆参加メンバー

地域活動団体の代表者・実務者、地域で活動する個人、関係機関の実務者、など

策定分科会ワーキングは  
3つのワーキングで構成

- 交流連携ワーキング
- 資源活用ワーキング
- 奥津湖ワーキング

策定委員会委員（敬称略）

（委員長） 美作大学大学院教授	目瀬守男
（副委員長）鏡野町町長	山崎親男
鏡野町議会議長	西山宣治
鏡野町観光振興協議会会長	鈴木春治
鏡野町商工会会長	野井新造
作州かがみの森林組合組合長	藤原 繁
岡山県美作県民局次長	本山隆介
国土交通省苫田ダム管理所所長	小坂田堅

策定分科会ワーキング参加団体：合計 22 団体（順不同）

奥津温泉観光協会	奥津温泉旅館組合
鏡野町観光振興協議会	鏡野町商工会
鏡野町青年農業者クラブ泉会	鏡野町林業研究グループ連絡協議会
久田川漁業協同組合	作州かがみの森林組合
杉・箱ふれあい祭実行委員会	塚谷・馬場の明日を考える会
NPOてっちりこ	富林業研究グループ
農事組合法人長藤農場	羽出地区農林業後継者クラブすずのこ会
(株)花美人の里	またたび隊
道の駅奥津温泉出荷組合	(株)未来奥津
(株)山田養蜂場	岡山県美作県民局
鏡野町	国土交通省苫田ダム管理所

2. ビジョンの検討経緯

開催日・会議名称	審議・検討内容
平成20年5月12日 第1回委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 委員会の設立</li> <li>2. 苫田ダム水源地域ビジョン策定手法の審議・合意</li> <li>3. 苫田ダム水源地域ビジョン基本方針(案)の審議</li> </ol>
平成20年5月28日 第1回全体ワーキング	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 策定分科会ワーキングの設立</li> <li>2. 自己紹介</li> <li>3. 意見の交換</li> </ol>
平成20年7月11日 第2回ワーキング ・奥津湖ワーキング ・交流連携ワーキング ・資源活用ワーキング	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 策定分科会ワーキングの区分と検討の進め方の確認</li> <li>2. 地域活性化の具体的なアイデア・意見の収集結果の確認</li> <li>3. 意見の交換</li> </ol>
平成20年8月8日 第2回委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 苫田ダム水源地域ビジョン基本方針(案)の審議</li> <li>2. 策定分科会ワーキングの検討状況の確認</li> <li>3. ビジョン策定の広報PR活動の確認</li> </ol>
平成20年9月2日 第3回ワーキング ・奥津湖ワーキング ・交流連携ワーキング ・資源活用ワーキング	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 苫田ダム水源地域ビジョン施策内容(素案)の検討</li> <li>2. リーディングプロジェクトの検討</li> </ol>
平成20年12月2日 第4回ワーキング ・奥津湖ワーキング ・交流連携ワーキング ・資源活用ワーキング	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ビジョン プレ・イベント「春の花園づくり」の開催結果の確認</li> <li>2. リーディングプロジェクトの検討</li> <li>3. 苫田ダム水源地域ビジョン(案)の検討</li> </ol>
平成21年1月22日 第3回委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 苫田ダム水源地域ビジョンの審議・合意</li> <li>2. 苫田ダム水源地域ビジョンの公表についての審議・合意</li> </ol>

## 1. 苦田ダム水源地域ビジョン策定委員会委員会規約

### (1) 「苦田ダム水源地域ビジョン策定委員会」設立趣意

鏡野町は一級河川吉井川の源流を成す深い森林と美しい清流に育まれた豊かな自然環境を有し、町域には、美人の湯として知られた4つの温泉や名勝・奥津峡に代表される自然観光資源などが数多く点在します。鏡野町ではこうした地域資源を有効に活かした観光を軸に、観光と地域産業とを融合させた6次産業化による地域づくりを進めています。また、平成17年4月には苦田ダムの完成によって美しい水を湛えた広大な奥津湖が誕生し、地域の新しい観光資源として多くの人々が訪れています。

一方、国土交通省では、今後のダム管理においては従来からダムに求められていた治水・利水の機能に加え、ダムやダム周辺の自然、地域文化等を利用して水源地域の自立的・持続的な活性化を図るとともに、水源地域が有する公益的な機能を確保することで、バランスのとれた流域圏の発展を図ることを目的に、水源地域活性化の行動計画として「水源地域ビジョン」を策定する施策を進めています。

このため、苦田ダムの水源地域においても、水源地域が有する様々な資源と苦田ダム・奥津湖の積極的な活用等によって水源地域の活性化を図るために、水源地域の自治体である鏡野町を中心に、関係諸機関、ダム管理者等が共同で「苦田ダム水源地域ビジョン策定委員会」を設立し、水源地域ビジョンの検討・策定を進めていきます。

平成20年5月12日

## (2) 「苫田ダム水源地域ビジョン策定委員会」規約

## (名 称)

第 1 条 本会は、「苫田ダム水源地域ビジョン策定委員会」(以下「委員会」という)と称する。

## (目 的)

第 2 条 本委員会は、苫田ダム水源地域ビジョンの策定に関する検討・立案・審議を行うことを目的とする。

## (組 織)

第 3 条 委員は中国地方整備局苫田ダム管理所長が委嘱する。

2 委員は、別表 1 のとおりとする。

3 委員会には、委員の互選によって委員長をおく。

4 委員会には、委員長の指名によって副委員長を 1 名おく。

5 委員会において具体的な検討等を行うために、委員会の下部組織として分科会を設けることができる。

6 分科会に関する事項は必要に応じて別途に定める。

7 委員会の任期は苫田ダム水源地域ビジョンが策定されるまでの期間とする。

## (職 務)

第 4 条 委員長は、委員会を代表し会務を総務する。

2 委員長は、必要な都度、委員会を招集し、開催する。

3 副委員長は、委員長の職務を補佐し、委員長不在時には委員長の職務を代行する。

## (公 開)

第 5 条 苫田ダム水源地域ビジョン策定委員会は原則として公開とする。

2 事務局は議事内容の概要を関係住民が閲覧できるよう必要な措置を講ずるものとする。

3 ただし、委員長が非公開とする議題であることを認めた場合には非公開とする。

## (事 務 局)

第 6 条 委員会の事務局は、国土交通省中国地方整備局苫田ダム管理所内に置く。

2 事務局は、委員長の指示を受け委員会の事務を行う。

## (規 約 の 効 力)

第 7 条 本規約は、苫田ダム水源地域ビジョンの策定の完了に伴い、その効力を失う。

## (そ の 他)

第 8 条 この規約に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

## 附 則

本規約は、平成 20 年 5 月 12 日から施行する。

別表1 苦田ダム水源地域ビジョン策定委員会 委員名簿

(敬称略)

役員名	氏名	所属等
委員長	目瀬 守男	美作大学 大学院 教授
副委員長	山崎 親男	鏡野町 町長
委員	西山 宣治	鏡野町議会 議長
	鈴木 春治	鏡野町観光振興協議会 会長
	野井 新造	鏡野町商工会 会長
	藤原 繁	作州かがみの森林組合 組合長
	本山 隆介	岡山県 美作県民局 次長
	小坂田 堅	国土交通省 苦田ダム管理所 所長

## 2. 水源地域ビジョン策定要綱

### 水源地域ビジョン策定要綱

(平成13年4月12日、国土交通省)

#### 第1 目的

この要綱は、国土交通省所管の直轄ダム及び水資源開発公団ダムに関して、ダム事業者・管理者が水源地域の自治体等と共同で策定を行う「水源地域ビジョン」の基本的な事項を定め、水源地域及び流域の自治体、住民及び関係行政機関等と広く連携し、適切なダム管理及びダム（ダム湖及びダム周辺の施設等を含む。）を活かした水源地域の自立的、持続的な活性化を図ることを目的とする。

#### 第2 定義

この要綱において「水源地域ビジョン」とは、ダムを活かした水源地域の自立的、持続的な活性化のために、水源地域の自治体、住民等がダム事業者・管理者と共同で策定する水源地域活性化のための行動計画である。

#### 第3 対象ダム

- (1)国土交通省所管の直轄ダム、水資源開発公団ダムを対象とする。
- (2)全ての直轄及び水資源開発公団の管理ダムについて、おおむね5年以内に水源地域ビジョンを策定するものとする。なお、管理中のダムの「水源地域ビジョン」の策定にあたっては、次のいずれかに該当するダムを優先して行うものとする。
  - ダム周辺環境整備事業に新規に着手するダム
  - 「地域に開かれたダム」に指定されたダム
  - 水源地域対策特別措置法施行以前に建設が開始され同法の対象となっていないダム等水源地域活性化を優先して推進する必要のあるダム
  - 水源地域の市町村や流域関係者が水源地域の活性化や上下流交流の活動に取り組んでいるダム
- (3)建設中のダムについては、管理に移行するまでに「水源地域ビジョン」を策定するものとする。

#### 第4 「水源地域ビジョン」の策定方法

- (1)「水源地域ビジョン」の策定主体は、ダム事業者・管理者、水源地域の自治体、住民等とする。策定主体は、「水源地域ビジョン」の策定に際し、流域の自治体、住民、関係行政機関等に、参画を求めていくものとする。
- (2)「水源地域ビジョン」の策定にあたっては、(1)の趣旨を踏まえて、ダム事業者・管理者、流域の自治体、住民、関係行政機関、有識者等からなる組織（以下、「水源地域ビジョン策定組織」という。ダムごとに相応しい名称を付けること）を設置し、水源地域の関係者の意向を反映できる方法により行うものとする。

(3)原則として、ダム事業者・管理者が「水源地域ビジョン策定組織」の事務局を受け持つものとする。

#### 第5 「水源地域ビジョン」の内容

「水源地域ビジョン」には、ダム及びダム周辺の豊かな自然及び水源地域の伝統的な文化活動等を利用した水源地域の自立的、持続的な活性化の方策とともに、ダム事業者・管理者及び関係行政機関等が行う支援方策等を定める。

「水源地域ビジョン」は、人づくりや既存施設の有効活用の推進等のソフト対策に重点を置くものとする。なお、施設整備を伴う場合は、当該施設の有効利用のための方策や維持管理等について、「水源地域ビジョン」に盛り込むものとする。

さらに、流域の住民が「水源地域ビジョン」の趣旨を理解し、上下流交流や流域の環境保全に関する活動等に参加、協力しやすいような内容であることが望ましい。

2)「水源地域ビジョン」は、ダムごとに現状と課題を整理した上で、水源地域の活性化を推進する内容、手法等を盛り込むことが望ましい。

一般的には次のような項目が上げられる。

##### 水源地域ビジョンの内容

具体的な内容の例としては次のようなものがある。

- ア 連携によるハード整備・ソフト対策
- イ 水を軸とした地域間交流の促進
- ウ 地場産業の振興
- エ 豊かな自然、文化等の提供 等

##### 水源地域ビジョン実施の手法

具体的な実施手法の例としては次のようなものがある。

- ア 地方整備局による総合調整・支援
- イ 人づくり、関係者の意識の向上
- ウ 相談窓口
- エ 情報発信 等

##### 水源地域ビジョン実施のための役割分担、連携・協力の方法

その他、水源地域の活性化に必要な事項等

#### 第6 「地域に開かれたダム」等との調整

(1)「地域に開かれたダム」に指定されたダム及びその整備計画を策定中のダムについては、「地域に開かれたダム」と十分に調整し、「地域に開かれたダム」で整備する施設等の利活用についても「水源地域ビジョン」に定め、ダム及び関連施設を有効に活用して、水源地域の活性化を推進するものとする。

(2)水源地域対策特別措置法の指定ダムについては、「水源地域整備計画」(同法第4条)に基づく施設の利活用についても検討する等「水源地域整備計画」と整合が図られたものとする。

#### 第7 「水源地域ビジョン」に基づく水源地域活性化の推進

- (1)ダム事業者・管理者は、水源地域の自治体、住民等が行う水源地域の活性化のための活動を支援するとともに、流域の自治体、関係行政機関、NPO、住民等に対しても情報提供や活動への理解と協力の呼びかけを行うものとする。
- (2)「水源地域ビジョン」に基づく水源地域活性化の着実な実施と関係者間の役割分担、連携・協力を円滑に進めるために、水源地域ビジョン策定組織を活用する等して水源地域ビジョンの推進組織づくりを積極的に行うものとする。

#### 第8 水源地域活性化の総合的な支援

- (1)地方整備局、北海道開発局、沖縄総合事務所（以下、「地方整備局等」という。）においては、「水源地域ビジョン」に基づく水源地域活性化を関係部、事務所等が連携して、総合的に支援していくものとする。このため、必要に応じ、水源地域の自治体等と設置する水源地域ビジョン推進組織に参画し、積極的な支援をするものとする。
- (2)地方整備局及びダムごとに設置する水源地域ビジョン推進組織等に対して、水源地域活性化の円滑な推進のための指導等を行うことを目的として、国土交通省内に水源地域ビジョン会議を設置するものとする。

#### 第9 「水源地域ビジョン」の公表

「水源地域ビジョン」は、策定後、インターネットのホームページに掲載する等の方法により、一般にも公表し、水源地域ビジョンに基づく事業や活動に対して流域関係者等の協力や積極的な参加を呼びかけるものとする。

#### 第10 「水源地域ビジョン」のフォローアップ

「水源地域ビジョン」に基づくハード事業やソフト対策の実施に際して、年度毎に目標達成状況のチェック、効果、水源地域の満足度等を確認し、必要があればビジョンの修正、追加等を行うものとする。

#### 第11 「水源地域ビジョン」に関する報告

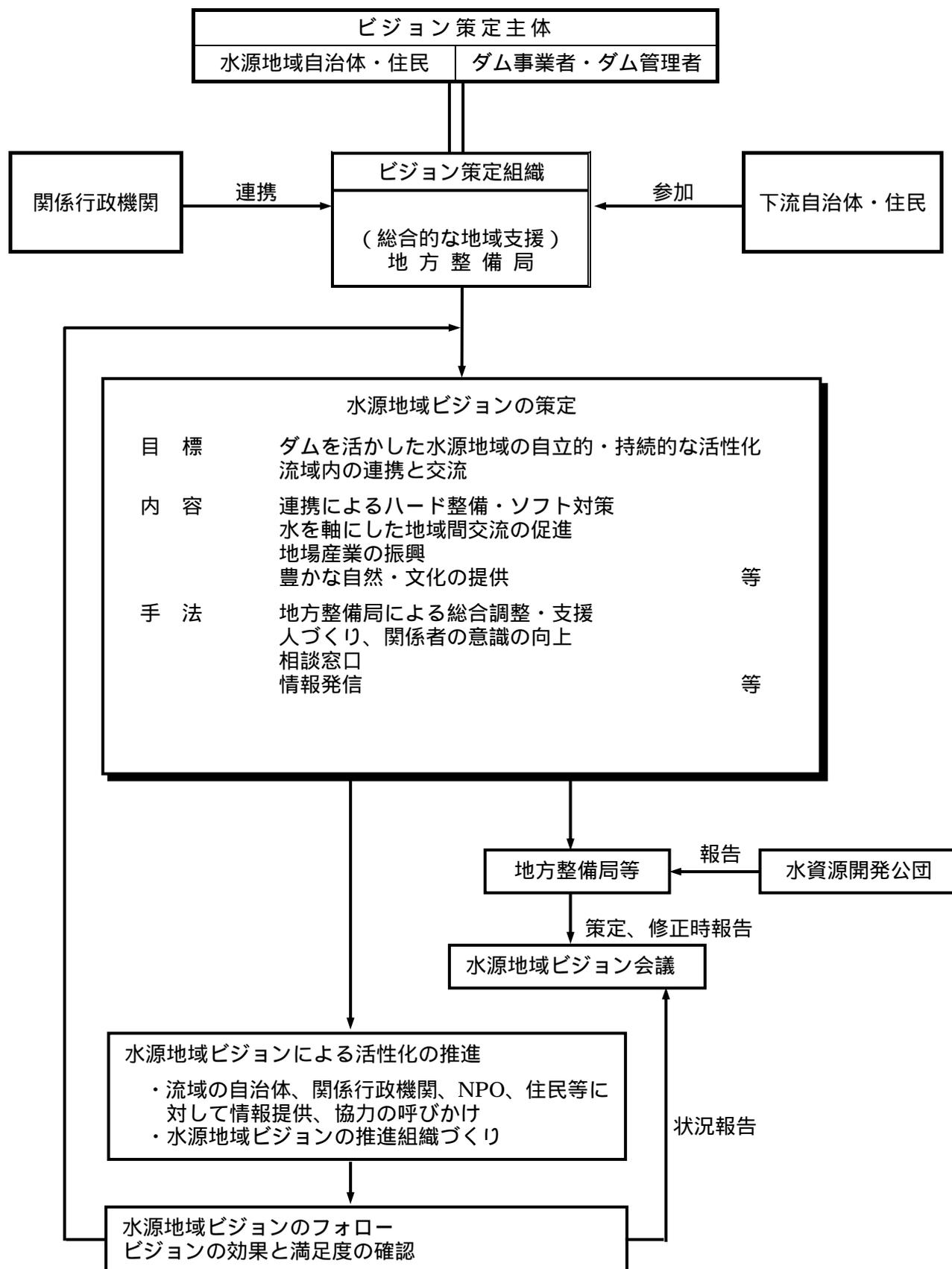
- (1)水資源開発公団総裁は、ダムごとの「水源地域ビジョン」を策定した時及び修正した時には、水源地域ビジョンを添えて、当該ダム所在地の所管地方整備局長に報告するものとする。
- (2)地方整備局長、北海道開発局長、沖縄総合事務局長（以下、「地方整備局長等」という。）は、水資源開発公団ダムを含めダムごとの「水源地域ビジョン」を策定した時及び修正した時は、水源地域ビジョンを添えて水源地域ビジョン会議に報告するものとする。
- (3)地方整備局長等は、年度毎に「水源地域ビジョン」に基づく、事業等の実施状況及び水源地域活性化の達成状況等を水源地域ビジョン会議に報告するものとする。

## 水源地域ビジョン会議設置要綱

- 第1 水源地域活性化の円滑な推進を目的として、国土交通本省内に水源地域ビジョン会議を設置するものとする。
- 第2 水源地域ビジョン会議は次の各号に掲げる事項について協議する。
- (1) ダムごとの水源地域活性化推進状況の評価。
  - (2) 地方整備局及びダムごとに設置する水源地域ビジョン推進組織等に関すること。
  - (3) その他、水源地域の活性化に関すること。
- 第3 水源地域ビジョン会議は、別表に定めるものをもって構成する。  
会長は、会議を主催するとともに、必要があるときは別表に定める者以外の出席を求めることができる。
- 第4 水源地域ビジョン会議の庶務は河川局河川環境課流水管理室におく。

別表 水源地域ビジョン会議の構成員

構成員の職名	備考
河川局長	会長
土地・水資源局水資源部長	副会長
河川局河川環境課長	委員（幹事長）
土地・水資源局水資源部水源地域対策課長	委員（幹事）
都市・地域整備局公園緑地課長	委員（幹事）



---

---

かがみの 彩りの郷 ビジョン

苫田ダム水源地域ビジョン

平成 21 年 3 月

発行 苫田ダム水源地域ビジョン策定委員会事務局  
(国土交通省中国地方整備局苫田ダム管理所)

〒078-0433 岡山県苫田郡鏡野町久田下原 1592-4  
電話 (0868) 52-2151

---

---

ハイツカの  
ひまから  
これから  
こころのこ

## ハイツカ湖地域ビジョン



# 笑湖(エコ)ハイツカ

人と自然が元気で笑顔があふれる湖域づくり



“笑湖(エコ)ハイツカ”

住む人・訪れる人が共に笑顔になって、  
自然があふれるハイツカ湖地域になることを目指します。  
いまこそ、逆境を超え、次世代に誇れるふるさとを創生する。  
ここに私たちの行動計画を記します。

平成21年9月 ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会

# 目 次

1. はじめに	1
(1)ハイヅカ湖地域ビジョンとは？	
(2)ハイヅカ湖地域ビジョン第1版の策定の経緯	
2. ハイヅカ湖地域の現状	3
(1)豊かな自然環境	
(2)時代を先取りするハイヅカ湖地域	
(3)恵まれた立地条件と周辺施設	
(4)ハイヅカ湖地域の暮らし	
(5)灰塚ダム・ハイヅカ湖	
3. ハイヅカ湖地域ビジョンの基本方針	4
4. ハイヅカ湖地域ビジョンの推進体制	5
5. ハイヅカ湖地域ビジョンの実施内容	6
(1)実施方針	6
(2)取り組みメニュー一覧	7
(3)取り組みメニューの実施手法(リーディングプロジェクトとして実施している取り組み)	9
(4)各取り組みメニューの実施手法(リーディングプロジェクト以外の取り組み)	16
(5)実施スケジュール	22
(6)レビュー・モニタリング計画	24

# 1.はじめに

## (1)ハイヅカ湖地域ビジョンとは？

中国地方のほぼ真ん中に位置するハイヅカ湖地域は、豊かな自然環境のもと人々が堂々と積み重ねてきた暮らしにより、歴史、民俗、文化、人材に恵まれた地域が形成されてきました。

全国的に地域格差、中山間地域の過疎化・少子高齢化が進展する一方で、心の豊かさ、心の充実を実感できるいきいきとした暮らしなどを求めて地域への期待も高まっています。

そんな中、灰塚ダム建設により洪水や渇水に対する安全・安心が高まるとともに、広大な水面を有するハイヅカ湖が生まれました。今、ハイヅカ湖地域の生き生きとした未来に向けて、将来へのロマンを描き、柔軟で幅広い力の集結が必要となっています。

ハイヅカ湖地域ビジョンは、地域の重要な資源の一つである灰塚ダム・ハイヅカ湖を中心に「灰塚ダムによって生まれた資源を活かした「笑湖(エコ)ハイヅカ～人と自然が元気で笑顔があふれる湖域づくり～」を目指し、ハイヅカ湖地域の自立的・持続的な活性化を図り、今後の中山間地域をリードすべく、ハイヅカ湖地域の住民、行政、広域的な有志等、多様な人々がそれぞれの機能を活かして参画し、自主・自律したパートナーとして相互に連携・協力しながら、実行・実現を図ることを目的としています。

このような目的のもと、多様な主体の参画による委員会、分科会などで議論を重ねてきました。ハイヅカ湖地域の各自治振興区の代表者によるハイヅカ湖地域連絡協議会においても、ハイヅカ湖地域への思いや今後の取り組みについて話し合いが行われ、灰塚ダム建設で創出された「ハイヅカ湖」と、それに伴い整備された資源を活かして、地域活性化につながるビジョンづくりの一翼を担う旨の提言がなされました。また、議論のみならず、具体的にいくつかのリーディングプロジェクトが推進されました。本ビジョンは、上記の目的ならびに様々な議論や具体的な活動の結果を踏まえてとりまとめた行動計画です。



上空から見たハイヅカ湖(H18. 4)

## (2)ハイツカ湖地域ビジョン第1版の策定の経緯

平成19年11月～平成21年3月までの約1年半に渡って、ハイツカ湖周辺の住民のみならず、取り組みに関心のある方々、学識者、三次市・庄原市、ダム管理者など、多様な主体の参画のもと、ハイツカ湖地域ビジョン準備会・委員会・分科会が開催されました。

さまざまな意見やアイデアを出し合い、協議を重ね、また、リーディング（試行的・先行的）プロジェクトを企画・実行する過程を経て、ハイツカ湖地域の地域活性化に向けた中長期的な方向性や取り組みを段階的に決定しました。

年月日	事柄	概要
H19.11.29	灰塚ダム水源地域ビジョン準備会	灰塚ダム水源地域ビジョンの進め方について、地域有志の方々による意見交換を実施。
H19.12.19	第1回ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会	「ハイツカ湖地域ビジョン」の名称及び趣意書を決定。また分科会のテーマ設定について承認。
H20.1.28.31	第1回ハイツカ湖地域ビジョン分科会	6つのテーマによる分科会を開催。地域の魅力や課題、将来像等について意見交換を実施。
H20.2.13	第2回ハイツカ湖地域ビジョン分科会	合同で分科会を開催。第1回分科会を踏まえ、分科会の目標や取り組みについて意見交換を実施。
H20.2.29	第2回ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会	分科会での意見交換を基本として基本方針案について協議。事務局にて修正後、公表することを承認。
H20.3	基本方針（試行版）公表	ハイツカ湖地域ビジョン基本方針（試行版）を公表。パブリックコメントを実施。
H20.6.27	第3回ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会	パブリックコメントやH20年度の取り組み及びスケジュールについて協議。
H20.7.8	第3回ハイツカ湖地域ビジョン分科会	合同で分科会を開催。各分科会のテーマに沿ってH20年度のLPの企画について意見交換を実施。
H20.11.25	第4回ハイツカ湖地域ビジョン分科会	合同で分科会を開催。H20年度取り組みの振り返り、各分科会の活動メニュー等について意見交換を実施。
H21.2.10	第5回ハイツカ湖地域ビジョン分科会	これまでの取り組みの振り返り、ビジョン第1版(原案)についての意見交換を実施。 ハイツカ湖地域連絡協議会からの提言を紹介。
H21.2.22	第4回ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会	分科会での意見交換を基本としてビジョン第1版について協議。事務局にて修正後、公表することを承認。
H21.3	ハイツカ湖地域ビジョン第1版(案)公表	ハイツカ湖地域ビジョン第1版(案)を公表。パブリックコメントを実施後、第1版を策定予定。



第1回分科会



第2回分科会



第3回分科会

## 2. ハイヅカ湖地域の現状

### (1) 豊かな自然環境

広島県の北東部に位置するハイヅカ湖地域は、カタクリやセツブンソウなどの山野草の宝庫であり、動物では、近年個体数が激減しているダルマガエルやブッポウソウなども含め、地元住民の方による保護・生育活動も盛んに行われています。また、人工湿地としては日本最大規模（約70ha）である知和ウェットランドも新たな水辺環境を創出し、平成17年に国特別天然記念物のコウノトリが飛来したことで有名になりました。

### (2) 時代を先取りするハイヅカ湖地域

三次市の人口は最近25年間で約4,500人（平成17年現在：59,314人）、庄原市は10,000人以上の減少（平成17年現在：43,149人）傾向をたどっています。

また、平成17年の広島県及び全国の年齢階層別人口割合をみると、老年人口の占める割合はともに20%強であるのに対し、三次市は約30%、庄原市は約36%に上ります。

ハイヅカ湖地域は、人口減少の加速化が全国よりも10～15年早く進んでいると言われていいます。このような状況下で、地域の方々が主体となって、ハイヅカ湖を活用したウォーキング大会など、活性化に向けた行事・催しなどが取り組まれています。

（※すべて合併後の新市で換算）

### (3) 恵まれた立地条件と周辺施設

三次市、庄原市周辺では古くから人々の暮らしが営まれており、多くの遺跡や古墳が現存します。また、花園、果物農園のほか、備北丘陵公園、奥田元宋・小由女美術館などの観光資源があります。

さらに、ハイヅカ湖地域には「ハイヅカ湖畔の森」や「田総の里スポーツ公園」をはじめとする様々な施設があり、平成19年度の利用者数は約20,000人で、昨年度に比べやや増加傾向にあります。

### (4) ハイヅカ湖地域の暮らし

ハイヅカ湖地域の各自治会では、各地の特色に応じて、カタクリ祭り、節分草祭り、ホタル祭り、夏祭り、秋祭りやパークゴルフ・グラウンドゴルフ大会など、地域の方々が自らの地域を楽しむ姿が見られます。

### (5) 灰塚ダム・ハイヅカ湖

灰塚ダムの主な役割は、ダム下流の人々の命・財産を洪水から守ること、三次市と庄原市にそれぞれ日量10,000トン、5,000トンの水道水・農業用水を供給することのほか、下流の河川水が不足する場合に環境用水を放流し、ダム下流の環境を改善する機能も備えています。

また、ハイヅカ湖地域には、知和ウェットランド、なかづくに公園などの自然を活かした施設があり、四季折々の花を見学できる場所も点在します。さらに、湖畔では釣りやキャンプを楽しむ人が増加しています。

### 3. ハイヅカ湖地域ビジョンの基本方針

ハイヅカ湖地域ビジョンの基本方針は、「ハイヅカ湖地域ビジョン推進委員会」及び「ハイヅカ湖地域ビジョン分科会」での意見交換やアイデアを基に作成したものです。

#### ハイヅカ湖地域ビジョン基本方針

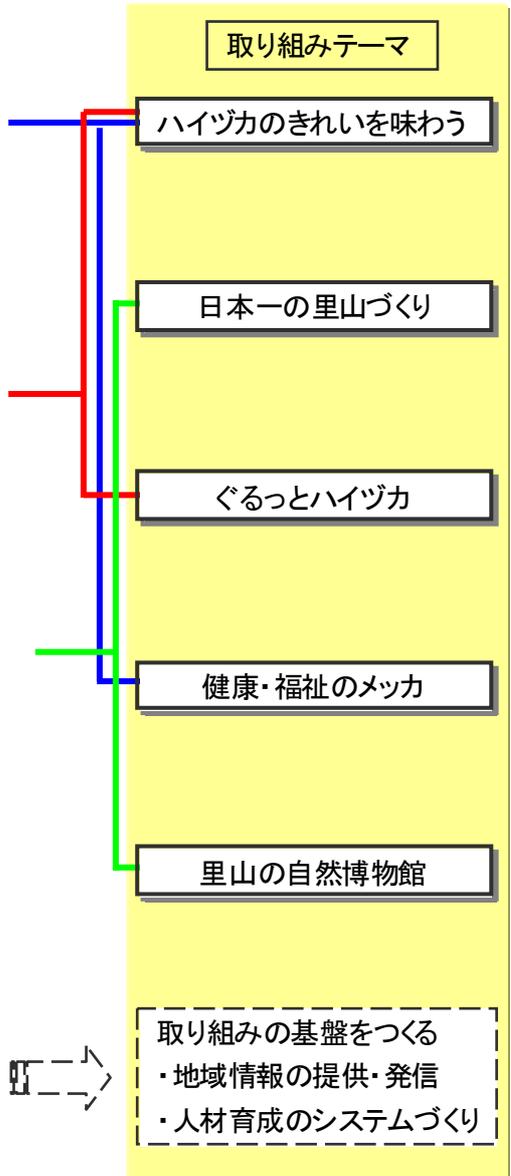
**「笑湖ハイヅカ」**  
～人と自然が元気で笑顔があふれる湖域づくり～

**(1) なごみのふるさとと美しいダムづくり**  
ハイヅカ湖地域の人々が楽しく誇りを持って暮らすとともに、訪れる人々を歓迎しつつ、ハイヅカ湖地域を自慢できるようにします。また、ハイヅカ湖周辺の環境や施設等を活用した健康や福祉に取り組み、地域の持続的な維持を推進します。

**(2) 笑湖をつなぐネットワークづくり**  
ハイヅカ湖や周辺の里山などの地域資源を最大限に活かすために、素敵な自然や営み、地域の人々や広域的な有志、行政等をつなぐネットワークをつくります。また、江の川流域に加え、中国地方のほぼ中央に位置するハイヅカ湖地域は、他地域との交流を促進します。

**(3) 自然との共生を知り、学ぶ笑湖づくり**  
ハイヅカ湖地域の里山やハイヅカ湖のウェットランド等の環境と循環を守り、地域の自然的魅力を、先ず地域が深く理解し郷土愛を育むとともに、より多くの方々にハイヅカ湖地域から学ぶ機会・活動を提供し、湖域を丸ごと「里湖博物館」として活かしていきます。

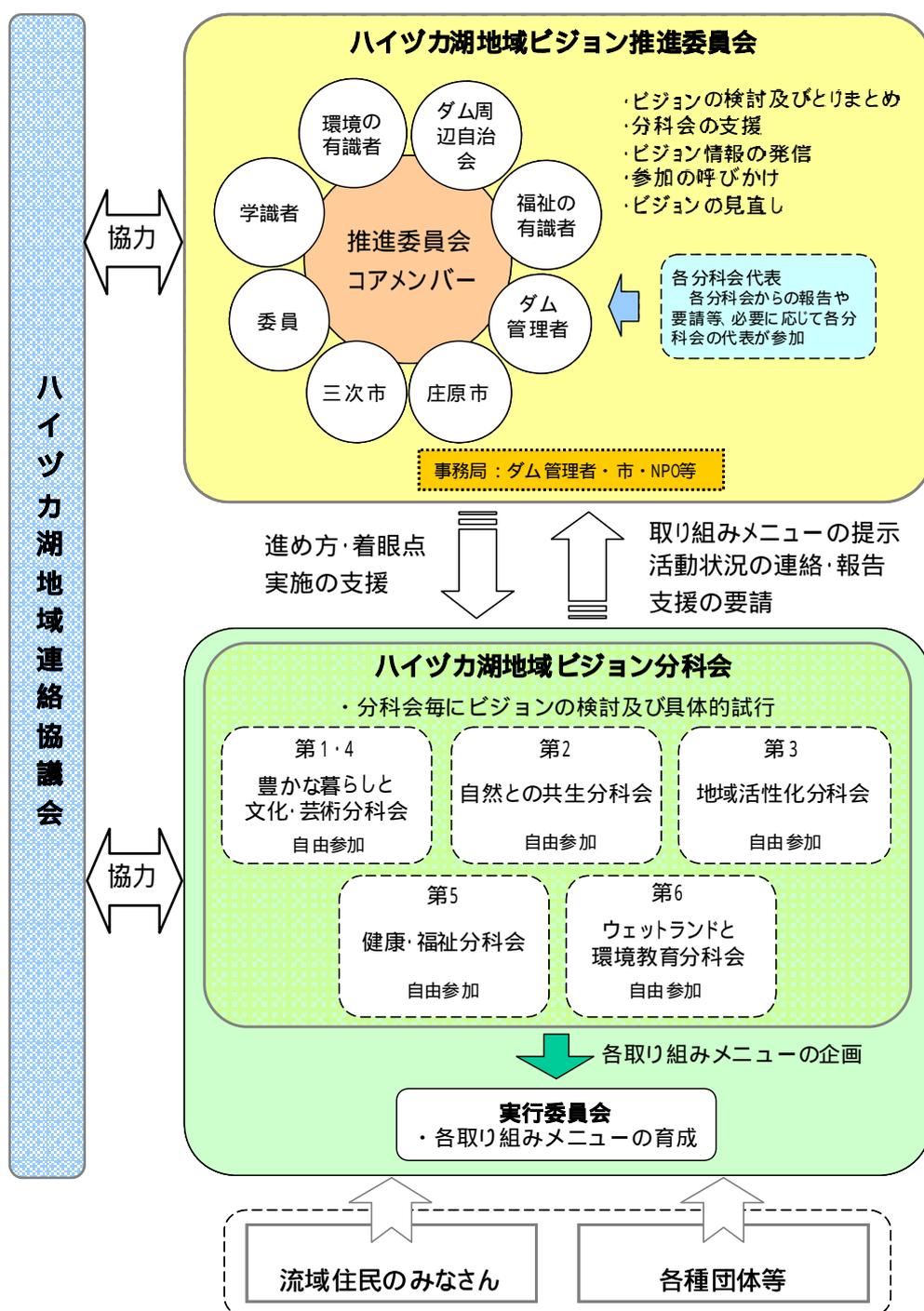
**(4) 情報、人材、経済などが力強く回る、安定した基盤づくり**  
灰塚ダムによりダム下流地域の安全・安心な暮らしを守るとともに、ハイヅカ湖地域の暮らしの活性化に向け、地域情報を提供・発信していきます。また、ハイヅカ湖地域での安定した働き場の拡大に向け、ハイヅカ湖や里山の活用の促進、地域リーダーとなる次世代を含めた人材育成のシステムづくりを行います。さらには各取り組みの相乗効果を高めるため、各取り組みの連携を図ります。



## 4. ハイヅカ湖地域ビジョンの推進体制

ハイヅカ湖地域ビジョンの取り組みは、参加するみなさんが中心となって進みます。分科会では、ワークショップ形式での意見交換や具体的な活動を行っていきます。“楽しく、なごやかに”をモットーとして、わいわい・がやがやとハイヅカ湖地域の今、これからのことを話し合い、将来に向けた取り組みを行っていきます。

今後は、情報提供や活動支援などを通じ、よりいっそうの連携体制を構築していきます。



## 5. ハイヅカ湖地域ビジョンの実施内容

### (1) 取り組みの実施方針

ハイヅカ湖地域ビジョンは、以下に示す実施方針に基づいて実施していきます。

#### ① 地域の合意形成による実行プロセス

ハイヅカ湖地域ビジョンの取り組みは、各分科会または実行組織を中心として、企画及び実施していきますが、ハイヅカ湖地域の合意は、取り組みの実施に不可欠です。

自治振興区連絡協議会や三次市及び庄原市の支所等の関係機関との連携を図りながら、適切に情報を発信し、地域との合意形成による実行プロセスを基本とします。

#### ② 計画的・段階的な取り組み

ハイヅカ湖地域ビジョンの取り組みは、多様な主体の参画による実施が重要となります。しかし、取り組みを実施することによって、かえって地域が疲弊してしまうようでは、取り組む意味が薄れてしまいます。

そこで、ハイヅカ湖地域ビジョンの取り組みメニューは、まず、地域の実情に応じたものから実施していくものとします。

#### ③ まずは“やりたいこと”、“できること”から

ハイヅカ湖地域ビジョンの取り組みは多岐に渡っています。いずれの取り組みも目的や熱意を持って立案されたものですが、全てを一度に実行することは難しく、また、継続して実施することができなくなってしまう。

よって、取り組みメニューについては、基本的に“すぐにでもやりたいもの”、“できること”から実施していくことが肝要になります。取り組みメニューの実行については、その重要性や緊急性を鑑みながら、地域のニーズやとつきやすさなどの面からも協議した上で、優先順位を設定していきます。

#### ④ スパイラルアップの仕組み

魅力・活力ある地域に発展していくためには、ハイヅカ湖地域ビジョンの取り組みを継続的に実施することが肝要です。その際、その取り組みにはどんな効果があり、どう評価されたのかを把握することが重要です。検証プロセスの中で、課題や改善点を見出し、次の取り組みへとつなげていくことで、持続的な発展が期待できます。

そこで、ハイヅカ湖地域ビジョン推進委員会を、取り組みの検証機関と位置づけ、スパイラルアップの仕組みづくりを行うとともに、各取り組みへのサポートやアドバイスを行います。

## (2) 取り組みメニュー一覧

テーマ	取り組みメニュー	今後の検討メニュー
ハイヅカの きれいを 味わう	<p>①大谷ルネッサンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大谷の昔を楽しめる、学べる環境づくり</li> <li>・★ガードレール・ペイントなどの地域の特色を活かした芸術活動(アースワーク等)</li> </ul> <p>②地元の事(自然・文化・歴史・料理)を知る</p> <p>③日常的なエコ活動の実践</p> <p>④外から人を呼び込むための仕掛けづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・里山の手入れ</li> <li>・地元大豆の味噌づくり</li> <li>・兼業の促進</li> <li>・安全な農作物づくり</li> <li>・美味しいものをみんなで食べ教える</li> <li>・伝統文化に誇りをもつ(神楽、盆踊り等)</li> <li>・写真・絵はがきコンテストを継続する</li> <li>・ハイヅカの情報をネットで配信、新聞、TV、ガイド本等でPR</li> <li>・行政とタイアップして空き家等を利用した住民移住計画の推進</li> </ul>
日本一の 里山づくり	<p>①★ハイヅカ湖地域を知り、ビューポイントに名前をつける「探湖会」、魅力を探す「ええと湖探し」の実施</p> <p>②雑草、かずらなどの研究と活用、野の花(山野草)を輝かす</p> <p>③副ダムに堆積する土砂を活用した取り組み</p> <p>④蛭の里づくり</p> <p>⑤「里山の達人」になる・を発掘する・を育てる</p> <p>⑥青空教室を開く</p> <p>⑦何時でも湖水面が見えるようにする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自給自足を売りにした宿泊所を作る</li> <li>・ハイヅカ湖へバスツアーで都市から来てもらう</li> <li>・地域の人が株主になり地産地消の場をつくる</li> </ul>
ぐるっと ハイヅカ	<p>①★「抱きしめて笑湖(エコ)ハイヅカ」の開催 ⇒地域活性化NPOの設立</p> <p>②★空心菜の特産化に向けた取り組み</p> <p>③こだわりの店や営みのPRと連携、「笑湖アーティスト市」の開催</p> <p>④エコトイレの設置提案、維持管理方法についての話し合いを通じた地域活性化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スローライフの体験</li> <li>・Iターンの促進</li> <li>・マツタケ再生・森林保護</li> <li>・地域の方が参画できる物産館</li> <li>・ハイヅカオリジナルの発信や開発</li> </ul>

★ :リーディング(先行的・試行的)プロジェクトとして、分科会の協議を経て位置づけたもの

青色:平成19~20年度で取り組みを実施したもの(引き続き実施する予定)

紫色:取り組みを企画中または実行中のもの

テーマ	取り組みメニュー	今後の検討メニュー
健康・福祉 のメッカ	<ul style="list-style-type: none"> <li>①★健康・福祉のマップづくり</li> <li>②パーク&amp;グラウンド・ゴルフ場の利用促進</li> <li>③老若男女・万人のための健康スポーツ企画 (季節毎のウォーキング(花、木、紅葉鳥の時期)、マラソン)</li> <li>④エコトイレの設置提案と維持管理</li> <li>⑤レンタサイクルの設置提案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュータイプ福祉住宅湖域構想</li> <li>・湖面利用(ボート等)の促進</li> <li>・運動公園周囲の3S(整理、整頓、掃除)</li> <li>・電動スクーター教習所、運動療法への活用</li> <li>・新スポーツ“草(くさ)レチック”大会の開催</li> <li>・つけもの(自然、健康食、ブルーギルずし)レストランの開店</li> <li>・矢田地区福祉団地構想の継続検討</li> </ul>
里山の 自然博物館	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ウェットランドでのブッポウソウの巣箱用支柱の設置と巣箱かけ</li> <li>②★ウェットランド団による環境学習 (笑湖楽校)</li> <li>③周辺自治会との協力による苗づくりとウェットランドの植樹会(ドングリ、モミジ、実もの)</li> <li>④ウェットランドのバス当歳魚の駆除</li> <li>⑤ウェットランドの広報活動 (ウェットランド団の今後の活動・体制等、ネットによるPR)</li> <li>⑥ウェットランドの管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コウノトリの住む環境作り</li> <li>・環境センターの設立</li> <li>・紅葉林を多くする</li> <li>・ウェットランドの予算獲得</li> <li>・人の手を入れない環境づくり</li> <li>・ファンクラブ定期集会</li> <li>・ビオトープづくり</li> </ul>

★ :リーディング(先行的・試行的)プロジェクトとして、分科会の協議を経て位置づけたもの  
 青色:平成 19～20 年度で取り組みを実施したもの(引き続き実施する予定)  
 紫色:取り組みを企画中または実行中のもの

全体の活動 を支える 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>①★情報発信・情報提供(ハイヅカ湖地域ビジョンWEB、情報BOXの設置)</li> <li>②活動を支える人づくり(リーダーの育成)</li> <li>③活動を支える組織・仕組みづくり</li> <li>④既存の観光地や観光施設とのネットワークの創出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こだわりの図書館づくり</li> <li>・「笑湖(ハイヅカ)祭」の当番開催</li> <li>・地域を守る「里守」の配置</li> <li>・温泉の開発</li> </ul>
	地域活性化を支えるダム管理 <ul style="list-style-type: none"> <li>①防災の取り組み</li> <li>②ハイヅカ湖の環境管理</li> </ul>	

### (3) 取り組みメニューの実施手法(リーディングプロジェクトとして実施している取り組み)

#### 大谷ルネッサンス(ガードレール・ペイントなどの地域の特色を活かした芸術活動)

ハイヅカ湖周辺は、アースワークの活動が展開されたこともあって、芸術作品が地域各所に点在するとともに、ガードレールについてもアースカラーで統一する取り組みが実施されました。しかし大谷地区は通常の白色ガードレールであるため、ガードレールをデザイン塗装し、一体としての景観づくりが望まれています。

そこで、大谷地区のガードレールのデザインに向けたワークショップを開催し、デザイン塗装を実施します。(H21.3 現在までに第4回WSまで開催済み)

#### 【実施内容・実施方法】

##### (a) 芸術系の高校生や大学生等との協働によるデザイン企画・塗装

- ・芸術系の高校生や大学生等の参画を呼びかけ・募集し、若者たちと地域が一緒になって、配色やデザインの企画を作ります。
- ・若者たちと地域の参加によるガードレールのデザイン塗装を実施します。
- ・大谷地区の塗装後は、適宜、他の箇所についても計画・実施します。
- ・継続的な取り組みへと発展させるため、地域主体の実行組織をつくります。

##### (b) アースワーク作品の地域ガイド

- ・上記の取り組みと連携して、ハイヅカ湖周辺に点在するアースワーク作品について、地域でガイドし、高校生や大学生等と一緒に地域を見つめ直し、地域の魅力について考えます。
- ・アースワーク作品の地域ガイドを定着させ、ハイヅカ湖地域を訪れた方々に積極的にガイドし、地域の魅力をPRします。
- ・併せて、アースワーク作品のガイドブックを作ります。

実施年次	平成 20 年度～平成 22 年度	実施主体	実行委員会
実施手法	平成 20 年度 学生・地域への呼びかけ、デザインワークショップの開催 平成 21 年度 塗り替えの実施、アースワークの地域ガイド育成・試行 平成 22 年度 アースワークの地域ガイドの実施、その他の箇所の塗装		



第1回WS ガードレール現地視察(大谷植物園)



第3回WS 1:2スケールデザイン案の制作

## ハイツカええと湖探し

ハイツカ湖周辺は、里山環境が広がっています。里山は地域の暮らしと密接した場所であるとともに、その環境には多くの動植物が生息・生育しています。しかし、地域の過疎化や少子高齢化が進行しており、里山の手入れ等の担い手が不足し、里山の荒廃が進んでいます。

そこで、まずはハイツカ湖地域の方々に失われつつある里山の魅力を伝えるために、ハイツカ湖地域の魅力を探しマップにする“ハイツカええと湖探し”を実施します。

### 【実施内容・実施方法】

#### (a) ハイツカええと湖探し

- ・「ハイツカええと湖探し」と称し、ハイツカ湖地域への参加を呼びかけつつ、ハイツカ湖周辺の魅力の収集をイベント形式で行います。収集にあたっては、湖面からの目線、夜や朝の景色、四季の変化など、時々に変わり行く姿をさまざまな切り口から捉えます。
- ・収集した情報は、マップとして整理し、ハイツカ湖地域に配布するとともに、ハイツカ湖地域を訪れる方々にも利用できるようにします。
- ・マップを活用し、今後は課題も同時に探し、里山環境を保全するためにできることを、分科会及び地域、関係機関等と協議して実施します。

実施年次	平成 20 年度～平成 21 年度	実施主体	第 2 分科会
実施手法	平成 20 年度 ハイツカええと湖マップの作成 平成 21 年度 里山環境の保全のための取り組み（分科会等の開催）		



「ええと湖探し」秋のお月見会



ハイツカ湖 ネイチャーマップ(原案)

## 空心菜の特産化に向けた取り組み

ハイヅカ湖地域には、当然ながら、広大なハイヅカ湖の水面が存在します。この貯水池を上手く活用して、地域の活性化や地域振興に結びつけようという目的で、中国野菜の「空心菜」の水耕栽培を実施します。空心菜は栄養価が高いとされ、また日本ではあまりなじみのない食材であるために、ブランド化も視野に入れて特産品化を検討します。さらに空心菜は栄養吸収力が強いとされており、ハイヅカ湖の水質保全への貢献も期待できます。

### 【実施内容・実施方法】

#### (a) 空心菜特産化委員会(仮称)の設置

- ・ 空心菜笑湖プラントの設置及び空心菜の試験栽培に向けた企画・アクションを推進する母体として、地域からの参画を募り、実行委員会（実行組織）を平成 21 年 1 月に設置しました。
- ・ 各自の得意分野を十全に活かせるよう、“生産”“企画”“研究”の3つのグループに分けてこの取り組みを推進していきます。

#### (b) 空心菜の試験栽培

- ・ 上記実行委員会にて、プラントの設置場所、規模、栽培方法、管理などについて協議し、具体的なプランを作成します。
- ・ 試験栽培プランに基づき、実行委員をはじめ、各主体の参画を促し、試験栽培を実施し、生育状況、商品価値（味、臭い、食感など）を検証します。

#### (c) 特産品化に向けた検討

- ・ ハイヅカ湖ならではの特産品化を目指すために、生産方法やレシピ、パッケージング(ネーミング等販促企画)、品質分析等の検討を行います。

実施年次	平成 20 年～平成 22 年度	実施主体	空心菜特産化実行委員会(仮称)
実施手法	平成 20 年度 空心菜特産化実行委員会(仮称)の設置及び企画会議の開催 平成 21 年度 空心菜の試験栽培 平成 22 年度 特産品化に向けた検討		



第3分科会 空心菜に関する企画会議



ペットボトルを活用した育苗のアイデア

## 「抱きしめて笑湖<sup>エ</sup>ハイツカ<sup>コ</sup>」

ハイツカ湖地域をたくさんの方に知っていただくとともに、地域コミュニティの活性化を目的として、「抱きしめて笑湖<sup>エ</sup>ハイツカ<sup>コ</sup>」を開催します。「抱きしめて笑湖<sup>エ</sup>ハイツカ<sup>コ</sup>」とは、たくさんの方にハイツカ湖を訪れてもらい、ぐるっとハイツカ湖を囲もうというアイデアです。他の分科会にて企画中のイベント等との同時開催も視野に入れ、連携して取り組んでいきます。

ハイツカ湖を核にして、ハイツカ湖地域の連携、ハイツカ湖地域と他地域、さまざまな人とのネットワークを促進するとともに、このプロセスを通じて地域の成長が期待されます。また、開催後は、活動資金を基にハイツカ湖地域の活性化を目的とした NPO の設立を視野に入れていきます。

### 【実施内容・実施方法】

- (a) 「抱きしめて笑湖<sup>エ</sup>ハイツカ<sup>コ</sup>」実行委員会の設置
- ・「抱きしめて笑湖<sup>エ</sup>ハイツカ<sup>コ</sup>」の進め方や企画、連絡調整などを行うため、有志による実行委員会（実行組織）を平成 20 年 12 月に設置しました。
- (b) 「抱きしめて笑湖<sup>エ</sup>ハイツカ<sup>コ</sup>」実行委員会及びイベントの実施
- ・上記、実行委員会にて、具体的な進め方などについて協議し、具体的なプランを作成します。
  - ・ハイツカ湖をぐるっと囲む本番に向けて、ハイツカ湖地域を PR し、取り組みを周知するために、イベントを定期的実施していきます。
- (c) 「抱きしめて笑湖<sup>エ</sup>ハイツカ<sup>コ</sup>」の開催
- ・上記プロセスを経て、2010 年 5 月 4 日(祝・みどりの日)を目標に、「抱きしめて笑湖<sup>エ</sup>ハイツカ<sup>コ</sup>」を開催します。
- (d) 地域活性化 NPO の設立
- ・開催後は、活動資金を基に、ハイツカ湖地域の活性化を目的とする NPO 団体の設立を目指します。

実施年次	平成 20 年度～平成 23 年度	実施主体	「抱きしめて笑湖 <sup>エ</sup> ハイツカ <sup>コ</sup> 」実行委員会
実施手法	平成 20 年度	「抱きしめて笑湖 <sup>エ</sup> ハイツカ <sup>コ</sup> 」実行委員会の設置及び委員会の開催	
	平成 21 年度	1 年前イベントの開催	
	平成 22 年度	「抱きしめて笑湖 <sup>エ</sup> ハイツカ <sup>コ</sup> 」の開催	
	平成 23 年度	ハイツカ湖地域の活性化を目的とした NPO 法人の設立	



実行委員会でのアイデア出しの様子



イベントの開催 H19 年みどりの日

## 健康・福祉のマップづくり

少子高齢化が進行するハイツカ湖地域においては、いきいきとした生活、活力あるコミュニティを維持していくためには、健康づくりが不可欠です。また、ハイツカ湖地域を支えていくための福祉も重要です。ハイツカ湖では、毎年「ハイツカ湖健康ウォーク」や「ハイツカ湖健康マラソン」などが開催され、地域の関心も高く、ウォーキングなどが盛んです。

ハイツカ湖を囲む道路は周回でき、また、ハイツカ湖のビューポイントがたくさんあることから、ハイツカ湖の景色を楽しみつつ、健康づくりに向けたウォーキング・マラソンマップを作成します。

### 【実施内容・実施方法】

#### (a) 健康・福祉マップの作成

- ・健康と福祉をテーマに、ハイツカ湖地域のお勧めウォーキングコースやマラソンコースなどをマップにします。
- ・マップには、単なるコースではなく、ハイツカ湖の見所などを掲載するとともに、距離＋カロリー表示など、楽しく健康づくりに取り組めるような工夫を検討します。

#### (b) マップを活用した健康・福祉の取り組み

- ・福祉と健康マップを活用し、ハイツカ湖地域の方々が気軽に健康づくりに取り組むためのウォーキング企画、距離票の設置などを検討します。

実施年次	平成 20 年度～平成 21 年度	実施主体	第 5 分科会
実施手法	平成 20 年度 福祉と健康マップの作成 平成 21 年度 マップを活用した健康・福祉の取り組みの実施		



ウォーキングマップ(原案)



「ハイツカ湖健康ウォーク 2007」

## ウェットランド団による環境学習(笑湖楽校)

ハイヅカ湖には、ダム湖の水質浄化と湿地環境の創出を目的としたウェットランドがあります。ウェットランドには、多様な生物が生息・生育しているとともに、自然環境を身近に学べる場所です。しかしながら、ハイヅカ湖地域をはじめ、周辺地域でもその存在がそれほど認知されていません。

ウェットランドが有する自然のポテンシャルを活用し、ハイヅカ湖を優れた環境学習の場として広く認識いただくために、ウェットランドの応援団である“ウェットランド団”による環境学習を実施していきます。

### 【実施内容・実施方法】

#### (a) ウェットランド団の募集及び勉強会の開催

- ・ウェットランド団は現在のところハイヅカ湖地域の有志により結成されていますが、今後も広く参加を呼びかけ、ウェットランド団の増員を図ります。
- ・ウェットランド団が環境学習や体験活動等で安全に楽しく指導できるよう、各種勉強会（動植物、指導法、安全管理等）を開催します。

#### (b) ウェットランド団による「ウェットランド笑湖楽校」の開催

- ・ウェットランド団による環境学習や体験活動を「ウェットランド笑湖楽校」と称して、年間を通じて、定期的に環境学習会や体験活動の機会を提供していきます。
- ・近隣の小学校、三次市・庄原市の中学校や高校に呼びかけ、定期的な観察会や環境保全活動等を展開していきます。

実施年次	平成 20 年度～平成 22 年度	実施主体	ウェットランド団、第 6 分科会
実施手法	平成 20 年度	ウェットランド団の結成及び勉強会の開催	
	平成 21 年度	ウェットランド笑湖楽校の実施	
	平成 22 年度	近隣の小学校や中学校、高校と連携した環境保全活動等の実施	



笑湖楽校での生きもの観察



笑湖楽校での鳥類勉強会

## 情報発信・情報提供(ハイツカ湖地域ビジョンWEB、情報BOX)

ハイツカ湖地域ビジョンの取り組みの一環として、平成 19 年度から「ハイツカ湖地域ビジョンWEB」を立ち上げ、インターネット上でビジョンの取り組みの紹介、活動の報告、イベントのお知らせやハイツカ湖地域の魅力発信などを行っています。

今後も継続してハイツカ湖地域のインターネットによる取り組み状況の共有、魅力発信などを行うとともに、各種協力者とのネットワークの構築に努めます。

### 【実施内容・実施方法】

#### (a) タイムリーで役立つ地域情報の発信

- ・地域で催される季節ごとの各種イベントなど、ハイツカ湖地域の魅力を随時発信します。

#### (b) 各種協力者とのネットワークの構築

- ・他の水源地域ビジョンを策定している地域と協力して、情報の共有やアイデア交流などを積極的に行います。
- ・取り組みに関心のある活動団体や知和ウェットランドの自然環境に関心のある教育・研究機関、歩こう会などとのネットワークを結び、ハイツカ湖地域の魅力をより多くの方に知ってもらうよう努めます。

#### (c) 情報BOXの設置

- ・ハイツカ湖地域の方々の意見、ハイツカ湖を訪れる方々の意見などを広く聴取するために、ハイツカ湖地域の各所にご意見箱となる情報BOXの設置を考えます。集められた情報は、「ハイツカ湖地域ビジョンWEB」に反映させるとともに、自治振興区連絡協議会やダム守同心、ビジョン事務局等で共有し、適切に活動に反映していきます。

実施年次	平成 21 年度～	実施主体	ハイツカ湖地域ビジョン事務局
実施手法	・ 地域情報の収集 ・ 地域情報の発信 ・ 各種関係機関等とのリンク ・ 情報BOXの設置		



ハイツカ湖地域ビジョン WEB のトップページ

#### (4)各取り組みメニューの実施手法(リーディングプロジェクト以外の取り組み)

##### 1)大谷ルネッサンス(大谷の昔を楽しめる、学べる環境づくり)

大谷周辺の希少な環境的魅力や歴史を活かして、“振り返れば未来”をテーマに、電気・水道がなかった時代の大谷の暮らしぶりを楽しめる、学べる環境づくりに取り組みます。はじめのステップとして、この取り組みに関心のある方が集まり、現場でじっくり体験しながら話し合える、ささやかな東屋を建てます。将来的には、維持管理を兼ねた「里山の暮らし体験イベント」などを開催します。また、現在進行中の大谷ガードレールデザインペイントも含め、大谷を包括的に活かす取り組みを目指します。

##### 2)地元の事(自然・文化・歴史・料理)を知る

ハイツカ湖地域で展開されたアースワーク等の芸術活動や地域の自然、地域の食などをテーマに、地域の方が地元のことを知る活動に取り組みます。またその中で、地域の自然や文化などを次世代に引き継ぐことに取り組みます。



自然観察ガイド養成講座



手前味噌づくり



灰塚大橋の欄干デザイン

##### 3)日常的なエコ活動の実践

美しいハイツカ湖やハイツカ湖地域の里地・里山を保全するため、現在取り組んでいる廃油石けんづくりやこれらのエコ洗剤を使っの公共施設のトイレそうじなど、日常的なエコ活動に今後も継続して取り組みます。

##### 4)外から人を呼び込むための仕掛けづくり

ハイツカ湖は、美しい湖面やシンボルとも言える噴水、また、湖面に見る鳥類など、四季折々の景色がゆったりと楽しめるため、地域の散策の場として多くの方に親しまれています。その魅力を他地域、都市部の人にPRし、より多くの方に訪れてもらえるよう、草刈りや清掃、植樹・花植などの活動を行うとともに、維持管理を兼ねた土地の使用権を条件付きで提供するなど、行政、ダム管理者とも協働して、アイデア提案、仕掛けづくりを行います。

#### 5) 雑草・かずらなどの研究と活用、野の花(山野草)を輝かす

雑草やかずらなどを単なる邪魔者として扱うのではなく、活用できる一資源として、現在取り組んでいる刈り草・伐木のリサイクルを今後も推進し、活用方法を研究します。また、山野草を地域の大切な魅力として、「カタクリ祭り」や写真・絵手紙コンテストなどの催しや保全活動を今後も地域全体で盛り上げていきます。



刈り草を使った肥料づくり

#### 6) 副ダムに堆積する土砂を活用した取り組み

灰塚ダムには2つの副ダム(知和堰堤、川井堰堤)があり、ハイツカ湖に流入する土砂や堆積物等を未然にせき止める役割があります。この副ダムに堆積する土砂等は、窒素、リン等の栄養分が豊富に含まれており、この土砂を活用し、また先述の5)と連携した肥料づくりなどを検討します。この肥料等はハイツカ湖地域の農地や花壇等に利用し、ハイツカ湖地域での物質循環を促進します。



知和堰堤

#### 7) 蛍の里づくり

ハイツカ湖周辺の上下川や田総川、杉谷川などでは、5、6月頃にゲンジボタルやヒメボタルが乱舞する姿を見ることができます。また、せせらぎ水路などを活用して蛍の繁殖などを行っています。そこで、それぞれの河川や場所においてボタルの保全に取り組み、地域一体となって蛍の里をPRするとともに、ボタルが棲める環境を維持していくため、「3) 日常的なエコ活動の実践」と併せて取り組んでいきます。

#### 8) 「里山の達人」になる、を発掘する、を育てる

ハイツカ湖地域はかつて、里山と共に暮らす生活を送っていましたが、現在となっては、当時の知恵や文化などが継承できなくなりつつあります。また、人手不足などによって里山の荒廃が顕著化しつつあります。そこで、里山の知恵や文化を学び、里山で遊び、里山を守る「里山の達人」に地域自らがなるとともに、若者や子どもたちに継承し、「里山の達人」を発掘する、育てる活動を行います。

#### 9) 青空教室を開く

地域の方々や若者や子どもたちを対象として、一番おいしい野菜の食べ方や間伐材などを活用した木工作など、人と里地里山のつながりを再認識するための青空教室を開催します。開催にあたっては、前述の2)、5)、後述の17)と連携し、たくさんの方が楽しめる、学べる教室を検討します。さらに、将来的には、エコツーリズムを提供できる学校の設立を目指します。

）何時でも湖水面が見えるようにする

ハイヅカ湖の周回道路には、展望所や駐車場、また良好な湖畔景観を望めるスポットが多くあります。しかしながら、特に夏季には雑草が繁茂し、せっかくの景観を見えにくくしています。そこで、展望所や駐車場、また良好な眺望点付近について、除草・清掃を行い、何時でもハイヅカ湖が望めるようにします。



ハイヅカ湖の名所である噴水

#### 11) こだわりの店や営みの PR と連携、「笑湖アーティスト市」の開催

ハイヅカ湖地域には、地元産小麦を使ったパン屋やこだわりのチーズ・ベーコン、また地域で芸術活動を行っている写真家や画家、ガラス工房など、個性的な店や営みが展開されています。これらの活動を地域で PR（応援）するとともに、連携して「笑湖アーティスト市」などの催し物を展開し、地域の魅力の一つへと育てていきます。



笑湖アーティスト市の様子

#### 12) エコトイレの設置及びデザイン提案と周辺の整備(維持管理方法の話し合いを通じた地域活性化)

ハイヅカ湖は湖岸の延長が約 30km あります。各箇所には駐車場や展望所などが設置されていますが、トイレの数は十分とはいえません。そこで、維持管理が比較的容易なエコトイレを設置することを話し合い、そのデザインや周辺の整備などを検討します。また、エコトイレの設置や維持管理の方法（有料の利用システム）などを地域で話し合い、実践することによって、地域交流を促進し、地域の活性化を図ります。2010 年 5 月 4 日の「抱きしめて笑湖ハイヅカ」開催までの設置完了を目指します。

#### 13) パーク&グラウンドゴルフの促進

ハイヅカ湖地域では、パークゴルフ・グラウンドゴルフを楽しむ姿が多く見られます。高齢者・身障者の方などが健康維持や健康促進として楽しみながら取り組めるパークゴルフ・グラウンドゴルフについて、地域のイベント（ウォーキング大会等）時に各ゴルフ場の紹介チラシを配布するなどして、利用促進、啓発活動に取り組みます。



なかつくに公園でのパーク・ゴルフ

#### 14) 老若男女・万人のための健康スポーツ企画

ハイヅカ湖の湖岸では、「ハイヅカ湖健康ウォーク」や「ハイヅカ湖健康マラソン」などのイベントが定期的で開催されており、また、遠方からも歩こう会などでハイヅカ湖が利用されています。そこで、ハイヅカ湖地域全体の高齢者・身障者の方などがより参加しやすい健康スポーツイベントを企画・提案します。



「ハイヅカ湖健康ウォーク 2007」

#### 15) レンタサイクルの設置提案

ハイヅカ湖は、周回約 30kmあり、さまざまな景観や四季折々の景色を楽しむことができます。また、ほとんどの道路には歩道が設置されており、散歩やサイクリングなどにもってこいの場所と言えます。そこで、訪れた方々が気軽にハイヅカ湖を楽しめるとともに、健康づくりに貢献できるよう、レンタサイクルの設置を検討します。レンタサイクルは、通常の自転車に加え、子ども用、2人乗り用、障がい者用なども検討し、多くの方々が楽しめるように工夫します。

#### 16) ウェットランドでのブッポウソウの巣箱用支柱の設置と巣箱かけ

ハイヅカ湖地域である安田地区では、巣箱かけなどブッポウソウの保護活動が取り組まれています。平成 20 年度には、ウェットランドにもブッポウソウの巣箱を設置し、繁殖が確認されています。そこで、さらにウェットランドに巣箱用の支柱を設置するとともに巣箱かけを行います。



ウェットランドに訪れたブッポウソウ

#### 17) 周辺自治会との協力による苗づくりとウェットランドの植樹会

ウェットランドは、ハイヅカ湖に湿地環境を創出するために設置されました。現在では多様な生きものが生息・生育しており、徐々にではありますが、その数も増えつつあります。そこで、より良い環境づくりとして、樹木が少ないウェットランドに、周辺自治会と協力し、各家庭で植樹する木の苗（どんぐり等）を育ててもらい、植樹活動を行います。

#### 18) ウェットランドのバス当歳魚の駆除

ウェットランドには多様な生物が生息しています。魚では、メダカやフナなど緩やかな場所を好む魚が多くいますが、現在、オオクチバス（ブラックバス）が徐々に勢力を拡大しており、在来種への影響が懸念されています。そこで、効果的に駆除するために、特にブラックバスの当歳魚（その年に生まれた魚）を対象に、駆除活動を行います。



駆除状況 ウェットランド

#### 19) ウェットランドの広報活動

ウェットランドは、三次市・庄原市の総合的な学習などの学校活動で利用されている他、各種の活動で多くの方が来場されていますが、地域の認知度は、まだまだ向上させていく必要があります。そこで、ウェットランド団からの口コミや各種の活動などを通じて、より広域的に、多くの方に対して広報活動を行います。



RCC(中国放送)による取材

## 20) ウェットランドの管理

ウェットランド団を中心に、より多くの方に快適にウェットランドを利用してもらうために、駐車場や通路周辺などの清掃や草刈りを行います。また、ウェットランドそのものについても、関心者や取り組みに共感いただける方を募り、生きものを保全していくための取り組みを行います。

## 21) 活動を支える人づくり(リーダーの育成)

リーディングプロジェクト並びに前述の 1)～16)については、その取り組みを実際に実施する“人”が不可欠です。リーディングプロジェクトではその活動をOJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング)として、リーダーの育成を図ります。また、地域ガイドの勉強会や環境学習の指導者養成講座等を適宜開催し、活動を支えていく人づくりを行います。さらには、この取り組みを通じて、リーダーの活躍の場の提供について、ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会等で検討します。



地域ガイド養成講座の様子



環境学習の指導者養成講座の様子

## 22) 活動を支える組織・仕組みづくり

将来的には、ビジョンにおける取り組みを支える母体としての組織が、継続的な活動の実施やその展開には不可欠となります。そこで、各種取り組みの機会を通じて、実行委員会形式の実行組織を設置するとともに、その発展形としてNPO法人の設立を検討します。

NPO法人は、活動の事務局機能や活動の窓口、予算管理などを行い、各種助成申請や各機関との調整などの役割を担います。

## 23) 既存の観光地や観光施設とのネットワークの創出

ハイツカ湖近郊には国営備北丘陵公園がある他、三次市・庄原市には県立みよし風土記の丘、奥田元宋・小由女美術館、三良坂ピオーネ、三次ワイナリー、帝釈峡など、多くの観光資源が点在します。これら観光地や観光施設と連携し、互いの情報交換を促進させるとともに、互いに来訪者に情報提供し合い、ネットワークの形成を図ります。

## 24) 防災の取り組み

### 洪水調節

灰塚ダムによって洪水調節を行い、下流地域の安全・安心な地域づくりに貢献します。また、ダム上流での大雨が原因でダム下流の河川水位が急激に上昇することが予想される場合には、放流警報サイレンを鳴らす等して、川を利用されている方の安全確保に貢献します。

### 必要な水量の確保

湯水で灰塚ダム下流でのかんがい用水、水道用水、魚の生息等、環境を保全するために必要な水量が不足する場合には、灰塚ダムから貯水池の水を補給して快適な地域づくりに貢献します。

### その他の被害軽減

洪水で山から流された流木を貯留して、下流での被害を軽減します。

ダムの上流で油流出事故が発生した場合は、関係機関とも協力して回収する等して、下流などでの被害を軽減します。

## 25) ハイヅカ湖の環境管理

### 水質保全

- ・「知和ウェットランド」と「川井池」によって、ハイヅカ湖へ流入するアオコや濁りの原因となるものを削減します。
- ・曝気設備、噴水設備、ポンプ設備によって水を循環させる等してアオコの増殖を抑制します。
- ・湖の深いところの酸素不足を緩和することによって、魚等の生息環境を保全し、アオコの原因となるものの発生を抑制します。
- ・選択取水設備によって最適な水深から取水をして下流への放流水質保全に努めます。

### 動植物の保全

- ・「知和ウェットランド」をはじめ良好な動植物の生息基盤を維持するために、監視、維持作業を行います。
- ・関係機関等とも協力し、ハイヅカ湖の良好な自然環境に悪影響を与えるオオクチバスなどの外来種の対策に努めます。
- ・灰塚ダム知和管理棟を拠点として、動植物の保全活動や保全に関する情報の交換の促進を図ります。

### 安全で快適な利用環境の保全

- ・関係者と共に行うダム守同心活動とも連携し、監視等を行い、安全で快適な利用環境の保全に努めます。
- ・安全で快適な利用をするために地域の方々と決めた「利用の心得」が遵守されるように利用者の意識向上に努めます。
- ・ハイヅカ湖地域にお住まいの方・訪れる方により灰塚ダム・ハイヅカ湖を活用いただけるように努めます。

## (5)実施スケジュール

ここでは、P7～8の取り組みメニューを対象に実施スケジュールを立案しています。

取り組みテーマ	取り組みメニュー	主な実施主体・支援・参加					
		分科会	地域	自治体	学校・教育機関	広域的な有志	ダム管理者
ハイヅカの きれいを味わう	①大谷ルネッサンス ・大谷の首を楽しめる、学べる環境づくり ・★ガードレール・ペイントなどの地域の特色を活かした 芸術活動(アースワーク等)	第1・4	◎	○	■	■	■
	②地元の事(自然・文化・歴史・料理)を知る	第1・4	◎	○			■
	③日常的なエコ活動の実践	第1・4	◎	○	■		○
	④外から人を呼び込むための仕掛けづくり	第1・4	◎	○			■
日本一の 里山づくり	①★ハイヅカ湖地域を知り、ビューポイントに名前をつける 「探湖会」、魅力を探す「ええと湖探し」の実施	第2	◎				■
	②雑草、かずらなどの活用・研究、野の花(山野草)を輝かす	第2	◎	○			■
	③副ダムに堆積する土砂を活用した取り組み	合同	◎	○		■	◎
	④蛍の里づくり	合同	◎	○	■	○(■)	■
	⑤「里山の達人」になる、を発掘する、を育てる	第2	◎	○	■	○(■)	○
	⑥青空教室を開く	第2、1・4	◎	○	■	○(■)	■
	⑦何時でも湖水面が見えるようにする	第2	◎	○		○(■)	◎
ぐるっと ハイヅカ	①★「抱きしめて笑湖ハイヅカ」の開催 ⇒地域活性化NPOの設立	「抱きしめて笑湖 ハイヅカ」実行委員会	◎	○		◎	○
	②★空心的菜の特産化に向けた取り組み	空心的菜特産化 委員会(仮称)	◎			○(■)	◎
	③こだわりのお店や営みのPRと連携、「笑湖アーティスト市」 の開催	合同	◎	○		◎	○
	④エコトイレの設置提案・維持管理方法についての話し合い を通じた地域活性化	合同	◎	○			○
健康・福祉の メッカ	①★健康・福祉のマップづくり	第5	◎	○			■
	②パーク&グラウンドゴルフの促進	第5	◎	○			○
	③老若男女・万人のための健康スポーツ企画	第5	○	○			○
	④エコトイレの設置提案と維持管理	合同	■	○			○
	⑤レンタサイクルの設置提案	第5	○	○		◎	○
里山の 自然博物館	①ウェットランドでのプッポウソウの巣箱用支柱の設置と巣箱 かけ	第6	◎	○	■		■
	②★ウェットランド団による環境学習(笑湖楽校)	第6	◎	○	■		■
	③周辺自治会との協力による苗づくりとウェットランドの植樹 会(ドングリ、モミジ、実もの)	第6	■	○	■		■
	④ウェットランドのバス当歳魚の駆除	第6	■	○	■		◎
	⑤ウェットランドの広報活動(ウェットランド団の今後の活動・ 体制等、ネットによるPR)	第6	■	○			◎
	⑥ウェットランドの管理	第6	■	○			◎
全体の活動を 支える取り組み	①★情報提供・情報発信 (ハイヅカ湖地域ビジョンWEB・情報BOX)	合同	◎	○	■	■	◎
	②活動を支える人づくり(リーダーの育成)	合同	◎	○	■	■	○
	③活動を支える組織・仕組みづくり	合同	■	◎	■	■	■
	④既存の観光地や観光施設とのネットワークの創出	合同	■	◎		○(■)	○
	①防災の取り組み	—	■	○	■		◎
	②ハイヅカ湖の環境管理	—	■	○	■		◎

★ :リーディング(先行的・試行的)プロジェクトとして、分科会の協議を経て位置づけたもの

青色:平成19～20年度で取り組みを実施したもの(引き続き実施する予定)

紫色:取り組みを企画中または実行中のもの

■ :参加

○ :支援

◎ :主な実施主体



## (6) レビュー・モニタリング計画

ハイヅカ湖地域ビジョンの実行においては、それぞれの取り組みの進捗やその評価及び課題・改善点を適宜チェックしながら、それぞれの取り組みにフィードバックすること及び定期的にモニターすることが重要です。このプロセスの中で、改善できるところは改善し、さらに新たな展開が必要な際は、改めて実施方針に則り進めていくことが肝要です。また場合によっては中止すべきものを検証する必要があるかも知れません。

このように、立てた計画(ハイヅカ湖地域ビジョン)を適宜レビュー(見直し)・モニタリング、その取り組みや計画そのものを、スパイラルアップ(計画 実行 検証 改善 計画の見直し 実行・・・)によって、より良いものへ高めていきます。

### 1) レビュー・モニタリングの時期

ハイヅカ湖地域ビジョン及びそれぞれ実施される取り組みについては、必要に応じて適宜、レビュー(検証・見直し)・モニタリングを行います。時期については、取り組み状況を確認しながら決定します。

### 2) レビュー・モニタリングの実施主体

ハイヅカ湖地域ビジョンやその取り組みの見直し(レビュー)は、ハイヅカ湖地域ビジョン推進委員会において行います。ハイヅカ湖地域ビジョン推進委員会では、それぞれの取り組み状況を確認するとともに、それぞれの取り組みに対して支援・助言・協働します。また、必要に応じて計画の見直しや改善などの提案を行います。



ハイヅカ湖地域ビジョン推進委員会の様子

### 3) レビュー・モニタリングの実施手法

#### 取り組み状況の確認

ハイヅカ湖地域ビジョンの各取り組みにおいて、それぞれの実施主体から活動状況について、ハイヅカ湖地域ビジョン推進委員会に情報提供いただきます。特に、催し物やイベント、学習会等が開催される場合には、その情報を提供いただきます。

(報告：各実施主体、収集：ハイヅカ湖地域ビジョン事務局)

#### ハイヅカ湖地域ビジョン推進委員会の開催

基本的には1年に1回、同委員会を開催し、それぞれの取り組み状況について提供いただいた情報を基に、ハイヅカ湖地域ビジョンと照らし合わせ、同委員会からの支援・助言・協働について協議します。

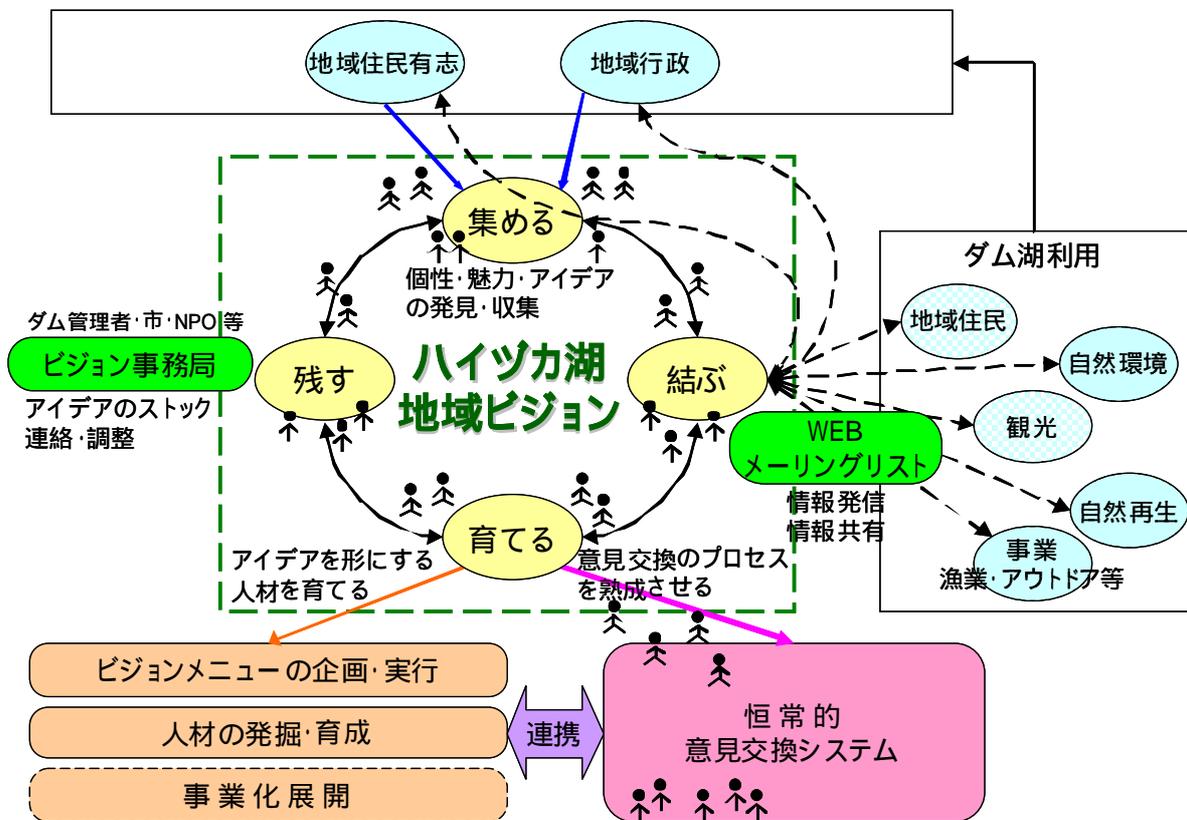
また定期開催とは別に、取り組みの各段階に応じて、同委員会を開催し、助言・改善・見直し等の提案を行います。

### 適切な情報共有

ハイツカ湖地域ビジョンの取り組み状況を共有し、誰からも意見や提案ができるように、ホームページでの情報提供を行います。

### 4) スパイラルアップのための仕組みづくり

ハイツカ湖地域ビジョンの推進にあたっては、上記のレビューが適切に実施され、また、改善策や提案が計画や実行に反映されるようにするために、スパイラルアップのための仕組みづくりを行います。



## ハイヅカ湖地域ビジョン推進委員会 委員構成

敬称略

○ 中越 信和	有識者	広島大学大学院国際協力研究科 教授
立石 雅哉	ダム周辺自治会	仁賀振興会 会長
多留 正弘	ダム周辺自治会	安田自治振興会 会長
上垣 良三	ダム周辺自治会	安田自治振興会 会長
今井 秀明	ダム周辺自治会	のぞみが丘運営協議会 会長
和田 芳治	ダム周辺自治会	木屋地区自治振興区 区長
山根 京司	ダム周辺自治会	稲草西自治振興区 区長
前川 俊清	教育	県立広島大学 生命環境学部 准教授
金沢 成三	自然・教育	比婆科学教育振興会 会長
岩水 正志	自然	灰塚ダム知和ウェットランド 知和管理棟 管理責任者
熊原 保	福祉	社会福祉法人総領福祉会 理事長
湧田 法恵	行政機関	三次市 三良坂支所長
久保田 隆義	行政機関	三次市 吉舎支所長
淀 弘之	行政機関	三次市 吉舎支所長
永田 修治	行政機関	庄原市 総領支所長
春田 正治	行政機関	庄原市 総領支所長
島田 淳次	行政機関	国土交通省 中国地方整備局 三次河川国道事務所 所長
西村 元次	行政機関	国土交通省 中国地方整備局 三次河川国道事務所 所長

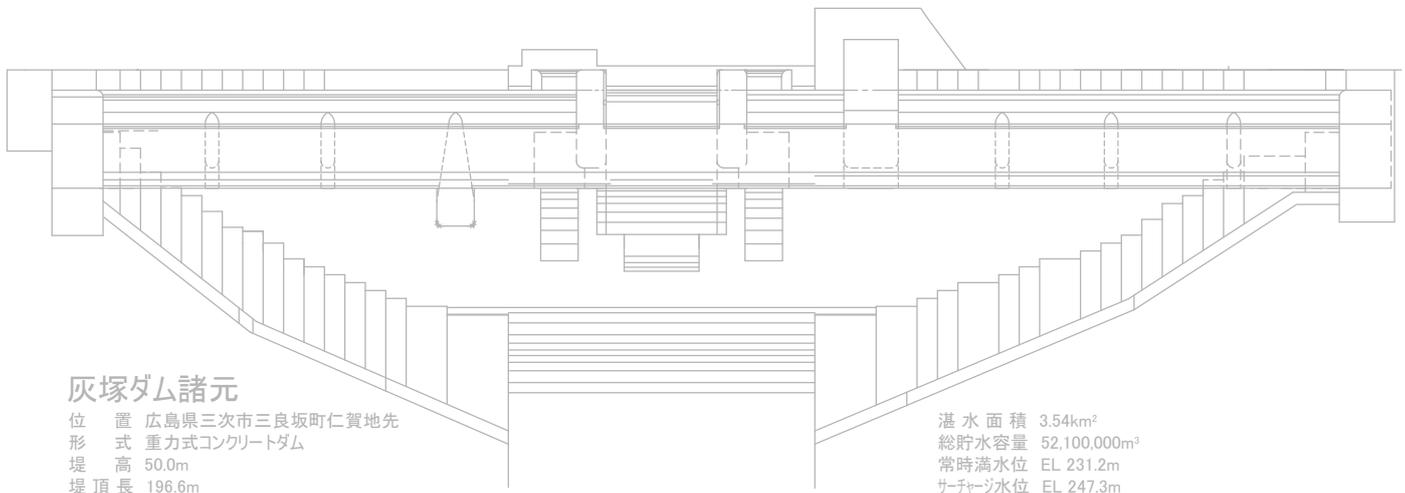
○委員長

## ハイヅカ湖地域ビジョン分科会 構成

分科会	テーマ
第1・4分科会	【豊かな暮らしと文化・芸術】 生き活きたとした豊かな暮らし、趣味や文化・芸術等の共有ネットワークなど
第2分科会	【自然との共生】 ハイヅカ湖周辺の自然や里山環境と人との関わりなど
第3分科会	【地域活性化】 兼業農家の活性化、特産品や地域ブランド作り、イベント企画など
第5分科会	【健康・福祉】 ハイヅカ湖周辺施設等を利用した健康増進・福祉・スポーツなど
第6分科会	【ウェットランドと環境教育】 ウェットランドの環境保全と、ウェットランドを活用した環境教育や体験学習など

※地域の方々や関心のある有志の自由参加で、分科会を開催しています。分科会はどなたでも参加できます。





**灰塚ダム諸元**

位置 広島県三次市三良坂町仁賀地先  
 形式 重力式コンクリートダム  
 堤高 50.0m  
 堤頂長 196.6m

湛水面積 3.54km<sup>2</sup>  
 総貯水容量 52,100,000m<sup>3</sup>  
 常時満水位 EL 231.2m  
 サーチャージ水位 EL 247.3m



**ハイツカ湖地域ビジョン**

**笑湖(エコ)ハイツカ**

～人と自然が元気で笑顔があふれる湖域づくり～

平成21年9月

© 2009 Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

ハイツカ湖地域ビジョン事務局

(国土交通省 三次河川国道事務所 灰塚ダム管理支所内)

〒729-4302 広島県三次市三良坂町仁賀1575

Phone.0824-44-4360 Fax.0824-44-3544

ハイツカ湖地域ビジョンWEB <http://www.haizuka.net>